

なか の さこ
中ノ迫第3遺跡

Nakanosako 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書41

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

【中ノ泊第3遺跡】正 誤 表

ページ・図番号	誤	正
p5 右37行目	接合を行った。	接合を行った。また、黒石遺構・伊穴の埋土の一部はセンター内にてフローテーション作業を行った。
p7 第5図	G~H 灰線	G~H 黒線
p8 第7図	2段目 F	2段目 E
p10 第10図		3.3cmが10cm
p12 左38行目	VI層からは遺物集中部3箇所を	VI層からは遺物集中部4箇所を
p13 土坑注記	SC3 1~2程度の橙色粒子を含む~	SC3 1~2cm程度の橙色粒子を含む~
p17 右12行目	B区に1群と2基が~	B区に1基と2群が~
p24 第20図	S	K
p24 第20図	M-M' M'側の14a	14b
p27 黒石遺構土層注記	SI10-1 2階褐色土(Hue10YR3/3)しまりや粘性弱い。炭化物を微量含む。	2層目 無し
p28 L-L' 7		褐色土(Hue7.5YR4/4)粘性やや強く軟らかい。10層直上。炭化物を多量に含む。1~2cmの褐色土ブロックを含む。
p30		SC13 1. 暗褐色土10YR3/3 やや粘性あり。硬くしまる。1cm大の黒褐色土10YR2/2のブロックや炭化物が混じる。
p31 SI12	同グリッド内に密集する3黒石の内、	同グリッド内に密集する4基の黒石遺構の内、
p31 SI22	比較的、SI42に近い箇所で検出した。	比較的、SI32に近い箇所で検出した。
p31 SI23	SI27・28に隣接してアカホヤ火山灰残存下にて検出された。	SI30・8に隣接してアカホヤ火山灰残存下にて検出された。
p31 SI33と34 備考		SI33の備考とSI34の備考が逆
p32 SP1-4 備考	床面はVII層上位であり、	床面はIX層上位であり
p32 SP2-4 備考	台石(103)	台石(104)
p32 第6表	SC12 H13bグリッド	H13cグリッド
p57~59 分期	番号36・70・87~91のII2類	全てIII類
p77 図版10	(6)40	(6)30
p78 図版11	(22)99	(22)32

なか の さこ
中ノ迫第3遺跡

Nakanosako 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書41

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財発掘調査を平成11年度から実施しております。本書は、その中の中ノ迫第3遺跡の調査成果を記載したものです。

中ノ迫第3遺跡の調査では、おもに縄文時代早期前半の集石遺構32基、炉穴21基が発見され、当時の生活の在り方をよく示す貴重な資料を得ることができました。このほか、近年、類例が増加している後期旧石器時代初頭の局部磨製石斧も出土し、こちらも大いに注目されます。また、台地北部に中ノ迫第1遺跡・中ノ迫第2遺跡が隣接しており、1つの遺跡群として当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になると考えられます。

このように、本遺跡からは多くの貴重な成果を得ることができ、本書が学術資料としてのみでなく、学校教育や生涯学習の場などで大いに活用されると幸いです。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関や地元の方々、並びにご指導・ご助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 清野 勉

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都賀）建設に伴い、宮崎県埋蔵文化財センターが平成16～17年度に実施した宮崎県児湯郡川南町大字川南字中の迫に所在する、中ノ迫第3遺跡の発掘調査報告書である。
（詳細番地は、宮崎県児湯郡川南町大字川南字中の迫1170-242、1170-241-1・2、1170-232-2・3、1170-709、1170-711である。）
- 2 発掘調査は、日本道路公団九州支社から委託を受けて宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での実測及び写真等の記録は、渡辺美幸・堀田孝博・天野玄替・石津晴菜が行ったほか、発掘作業員が補助した。
- 4 本書の執筆・編集は渡辺美幸が担当し、藤木聡が補助した。本書使用の遺物実測図の作成は渡辺美幸が行ったほか、整理作業員が補助した。出土遺物写真は、当センターの竹田享志の協力を得て渡辺美幸が撮影した。
- 5 測量・空中写真・自然科学分析等は次の機関に委託した。
地形測量・グリッド杭設定 : (有)川南技術コンサルタント
空中写真撮影 : (株)九州航空
自然科学分析 : (株)古環境研究所
- 6 本書で使用した周辺遺跡分布図は、国土地理院発行25,000分の1地形図をもとに、遺跡周辺地形図は、日本道路公団九州支社宮崎工事事務所提供1,000分の1測量図をもとに作成した。
- 7 本書で使用した方位は座標北（G.N.）を基本とするが、遺構実測図などの一部に磁北（M.N.）を用いた。標高は海拔絶対高である。なお、国土座標は旧平面直角座標系Ⅱに基づく。
- 8 土層断面・石材・土器の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠した。
- 9 本報告書では遺構を下記の略号を用いている。
SI=竊群・集石遺構 SC=土坑 SP=炉穴
- 10 挿図の縮尺は各図に示している。
- 11 東九州自動車道関連遺跡の発掘調査では、基本的に認められるテフラやローム層、黒色土帯については共通の略称を用いている。
テフラ：K-Ah=鬼界アカホヤ、Kr-Kb=霧島小林軽石、AT=始良Tn
土層：ローム層は上層から順にML1・ML2…、黒色帯はNB0・MB1・MB2…
- 12 出土遺物その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第I章	はじめに	
第1節	発掘調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第II章	遺跡の位置と環境	
第1節	地理的環境	2
第2節	歴史的環境	2
第III章	調査の方法と経過・概要	
第1節	確認調査の概要	5
第2節	発掘調査の方法と経過	5
第3節	整理作業及び報告書作成	5
第IV章	調査の記録	
第1節	基本土層と土層堆積	6
第2節	後期旧石器時代の遺構と遺物	
1	旧石器時代I期	9
2	旧石器時代II期	11
3	旧石器時代III期	11
4	旧石器時代IV期	12
第3節	縄文時代早期の遺構と遺物	
1	集石遺構	17
2	炉 穴	17
3	出土土器	22
4	出土石器	22
5	遺構出土の遺物	22
第V章	自然科学分析	
第1節	中ノ迫第3遺跡における放射性炭素年代測定	62
第2節	中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定	64
第VI章	まとめ	66

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置・周辺遺跡分布図	3
第2図	周辺地形と調査グリッド配置図	4
第3図	確認調査トレンチ配置図	4
第4図	土層柱状図	6
第5図	土層断面図(1)	7
第6図	グリッド配置図・土層断面位置図	7
第7図	土層断面図(2)	8
第8図	旧石器時代Ⅰ期遺物実測図	9
第9図	旧石器時代Ⅰ期遺物出土位置図	9
第10図	旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期調査範囲・遺構遺物分布図	10
第11図	旧石器時代Ⅱ期遺構実測図	11
第12図	旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期遺構実測図	13
第13図	旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期遺物実測図	14
第14図	縄文時代早期遺構遺物分布図	18
第15図	集行遺構実測図(1)	19
第16図	集行遺構実測図(2)	20
第17図	集行遺構実測図(3)	21
第18図	集行遺構実測図(4)	22
第19図	伊六実測図(1)	23
第20図	伊六実測図(2)	24
第21図	伊六実測図(3)	25
第22図	土坑実測図	26
第23図	縄文時代早期土器実測図(1)	33
第24図	縄文時代早期土器実測図(2)	34
第25図	縄文時代早期土器実測図(3)	35
第26図	縄文時代早期土器実測図(4)	36
第27図	縄文時代早期土器実測図(5)	37
第28図	縄文時代早期土器実測図(1)	38
第29図	縄文時代早期土器実測図(2)	39
第30図	縄文時代早期土器実測図(3)	40
第31図	縄文時代早期土器実測図(4)	41
第32図	縄文時代早期土器実測図(5)	42
第33図	縄文時代早期土器実測図(6)	43
第34図	縄文時代早期土器実測図(7)	44
第35図	縄文時代早期土器実測図(8)	46
第36図	縄文時代早期土器実測図(9)	46
第37図	縄文時代早期土器実測図(10)	47
第38図	縄文時代早期土器実測図(11)	48
第39図	縄文時代早期土器実測図(12)	49
第40図	縄文時代早期土器実測図(13)	50
第41図	縄文時代早期土器実測図(14)	51
第42図	縄文時代早期土器実測図(15)	52
第43図	縄文時代早期土器実測図(16)	53
第44図	縄文時代早期土器実測図(17)	54
第45図	縄文時代早期土器実測図(18)	55
第46図	縄文時代早期土器実測図(19)	56

日向灘をのぞむ(中央・道路左側が中ノ道第3遺跡)	
遺跡遺景(2)	
竹杖台地の縁辺に立地する中ノ道第3遺跡(遠くは尾崎山系)	
図版3	70
A区 K-A h 残存状況(南より)	
B区 K-A-h 残存状況(南より)	
作業風景	
基本土層	
B区 旧石器時代Ⅰ期(Xa層検出) 遺物出土状況	
B区 旧石器時代Ⅱ期(Ox層検出) S11検出状況	
A区 旧石器時代Ⅲ期(VI層検出) S12検出状況	
図版4	71
B区 旧石器時代Ⅲ期(VI層検出) S17検出状況	
B区 旧石器時代Ⅳ期(V層検出) SC3半載状況	
B区 旧石器時代Ⅳ期(V層検出) SC3土層堆積状況	
A区 縄文時代早期(IV層検出) S138検出状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) S133検出状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) S112検出状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) S111配石検出状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) S119半載状況	
図版5	72
A区 縄文時代早期(V層検出) S119完器状況	
B区 縄文時代早期(V層検出) S129半載状況	
B区 縄文時代早期(V層検出) S18半載状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) SP1焼土面検出状況	
A区 縄文時代早期(VI層検出) SP2焼土面検出状況	
A区 縄文時代早期(VI層検出) SP3焼土面検出状況	
B区 縄文時代早期(VI層検出) SP4焼土面検出状況	
B区 縄文時代早期(VI層検出) SP5焼土面検出状況	
図版6	73
B区 縄文時代早期(VI層検出) SP5ブリッジ検出状況	
B区 縄文時代早期(VI層検出) SP6ブリッジ半載状況	
B区 縄文時代早期(V層検出) SP6焼土面状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) SC5検出状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) SC5半載状況	
A区 縄文時代早期(V層検出) SC4半載状況	
B区 縄文時代早期(V層検出) SC14半載状況	
B区 縄文時代早期(V層検出) SC13半載状況	
図版7	74
旧石器時代Ⅰ期 出土遺物	
旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期 出土石器(1)	
旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期 出土石器(2)	
縄文時代早期 SPS埋土中出土遺物(1) 磨石・礫石・砂石	
縄文時代早期 SPS埋土中出土遺物(2) 台石	
縄文時代早期 SP2埋土中出土遺物 台石	
縄文時代早期 SP2埋土中出土遺物・S127-S18 包含層中出土遺物	
縄文時代早期 出土石器(1) 石核・スクレイパー	
図版8	75
縄文時代早期 出土石器(2) 二次加工・刮片・スクレイパー	
縄文時代早期 出土石器(3) スクレイパー	
縄文時代早期 出土石器(4) 石斧	
縄文時代早期 出土石器(5) 石斧	
縄文時代早期 出土石器(6) 石斧・礫器	
縄文時代早期 出土石器(7) 礫器	
縄文時代早期 出土石器(8) 礫器	
縄文時代早期 出土石器(9) 礫器	
図版9	76
縄文時代早期 出土石器(10) 石核	
縄文時代早期 出土石器(11) 石核	
縄文時代早期 出土石器(12) 石核	
縄文時代早期 出土石器(13) 石核	
縄文時代早期 出土石器(14) 石核	
縄文時代早期 出土石器(15) 石核	
縄文時代早期 出土石器(16) 礫石・磨石	
縄文時代早期 出土石器(17) 礫石・磨石・砂石	
図版10	77
縄文時代早期 出土石器(1) ~ (12)	
図版11	78
縄文時代早期 出土石器(13) ~ (24)	

表 目 次

第1表	集行観察表(1)	15
第2表	集行観察表(2)	16
第3表	集行遺構観察表(1)	31
第4表	集行遺構観察表(2)	32
第5表	伊六観察表	32
第6表	土坑観察表	32
第7表	縄文時代早期土器観察表(1)	57
第8表	縄文時代早期土器観察表(2)	57
第9表	縄文時代早期土器観察表(3)	59
第10表	縄文時代早期土器観察表(1)	60
第11表	縄文時代早期土器観察表(2)	61

図 版 目 次

図版1	遺跡俯瞰(垂直方向より)	68
図版2	遺跡遺景(1)	69

第I章 はじめに

第1節 発掘調査に至る経緯

宮崎県は、平成元年に東九州自動車道(延岡～清武間)の基本計画が設けられ、平成8年12月には門川～西都間59kmが、国土開発幹線自動車道建設審議会にて、整備計画区に決定された。宮崎県教育委員会では、平成6年度に延岡～西都間の分布調査を実施した。さらに整備区間決定後、都農～西都間の分布調査を実施し、79遺跡896,000m²の埋蔵文化財包蔵地を確認した。平成11年度から用地買収に合わせ日本道路公団九州支社から宮崎県が委託をうけ、宮崎県埋蔵文化財センターにより東九州自動車道(都農～西都間)建設工事に伴う発掘調査が行われた。

本遺跡は、平成16年5月24日から7月7日まで本調査に先立ち、10,200m²を対象に中ノ迫第3遺跡の確認調査を実施した。また、同時に隣接する中ノ迫第4遺跡の確認の調査も行った。その結果、中ノ迫第3遺跡の対象範囲南側は大幅な削平により包含層を確認出来なかったが、北側2,560m²では縄文時代早期の集石遺構や石斧・石鏃・剥片等の遺物を確認した。よって、北側2,560m²について本調査が必要となった。公団との協議の結果、記録保存のため本調査を平成16年11月26日から平成17年8月4日まで実施した。

中ノ迫第4遺跡では、包含層が残っていないことから確認調査にて調査終了となった。

第2節 調査の組織

中ノ迫第3遺跡の調査組織は次のとおりである。

(調査主体) 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長

宮園 淳一(平成16・17年度)

清野 勉(平成18年度)

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫(平成16～18年度)

副所長兼総務課長

大園 和博(平成16年度)

副所長

加藤 悟郎(平成18年度)

総務課長

宮越 尊(平成17・18年度)

主幹兼総務係長

石川 恵史(平成16・17年度)

主幹兼総務担当リーダー

高山 正信(平成18年度)

(調査第一課)

調査第一課長

高山 富雄(平成16～18年度)

調査第一係長

谷口 武範(平成16年度)

主幹兼調査第一係長

長津 宗重(平成17年度)

主幹兼調査第一担当リーダー

長津 宗重(平成18年度)

調査第二係長

長津 宗重(平成16年度)

主幹兼調査第二係長

菅付 和樹(平成17年度)

主幹兼調査第二担当リーダー

菅付 和樹(平成18年度)

調査担当

主 事 渡辺 美幸(平成16・17年度)

主 事 堀田 孝博(平成16年度)

主 事 天野 玄善(平成17年度)

調査員 石津 晴菜(平成17年度)

整理・報告担当

主 事 渡辺 美幸(平成17～18年度)

調査指導委員(所属は調査当時・五十音順)

泉 拓良(京都大学)・小畑弘己(熊本大学)

田崎博之(愛媛大学)

広瀬和雄(国立歴史民俗博物館)

本天道輝(鹿児島大学)・柳沢一男(宮崎大学)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

川南町は、日向灘を望む宮崎県北東部に位置し北は都農町、西は木城町、南は高鍋町に接している。町北東部には1,040mを誇る上面木山を中心とする尾鈴山系が連なり、その東麓から海岸にかけては小丸川や平田川、名貫川によって形成された平坦な14面の段丘が広がり、北から大きく唐瀬原・国光原・川南・高城の4面に分かれる。中ノ迫第3遺跡は、唐瀬原段丘の内、大内・大内原・須田久保に広がる舌状台地の縁辺部標高90m前後に立地し、南方には小丸川支流の切原川が流れ、十文字扇状地Ⅱ面が広がる。遺跡周囲には同台地上に、北から中ノ迫第1遺跡と第2遺跡、北東側に中の迫A遺跡、南の扇状地に前ノ田村上第1遺跡と第2遺跡が分布する。

第2節 歴史的環境

川南町は、北西から南東にかけ山地・段丘と扇状地からなり、多くが山地・段丘である。昭和前半には国営開田事業が行われ、その多くが田畑に利用されている。本遺跡も畑地利用のため範囲の大半が大幅な削平により旧地形を残していない。また地域住民の聞き取りを行った結果、畑地利用後は隣接する人家の産廃場も兼ねていたことから多数の撹乱が見られた。

本遺跡の調査では、後期旧石器時代の文化層4枚(AT下2枚・AT上2枚)と縄文時代の文化層1枚(早期1枚)の計5枚を確認した。これらの時代について、中ノ迫第3遺跡周囲の遺跡を中心に特筆すべき点を述べる。後期旧石器時代AT上の文化層確認の遺跡については、分布のみ記す。

(後期旧石器時代AT下：ML3～MB3下部)

川南段丘面に後牟田遺跡がある。礫群と斜軸尖頭器・歯歯緑石器などが第Ⅲ文化層で確認されている。また、同じ頃の遺物として都農町朝倉遺跡、新富町音明寺第2遺跡出土の局部磨製石斧がある。

(後期旧石器時代AT下・高位段丘面上の遺跡：MB2・3上部)

北から中ノ迫第1遺跡(ナイフ形石器・剥片・台石)、中ノ迫第2遺跡(剥片)、国光原遺跡(MB2：台形石器・

礫器・石核、MB3：戴石・石斧)、後牟田遺跡第Ⅱ文化層(ナイフ形石器・削器・斧形石器・台形様石器)がある。

(後期旧石器時代AT下・低位段丘面上の遺跡：MB2・3)

赤石・天神本遺跡(スクレイパー)、銀座第2遺跡(礫群1基、ナイフ形石器、剥片)、登り口第1遺跡(剥片)、市納上第2遺跡(剥片)がある。

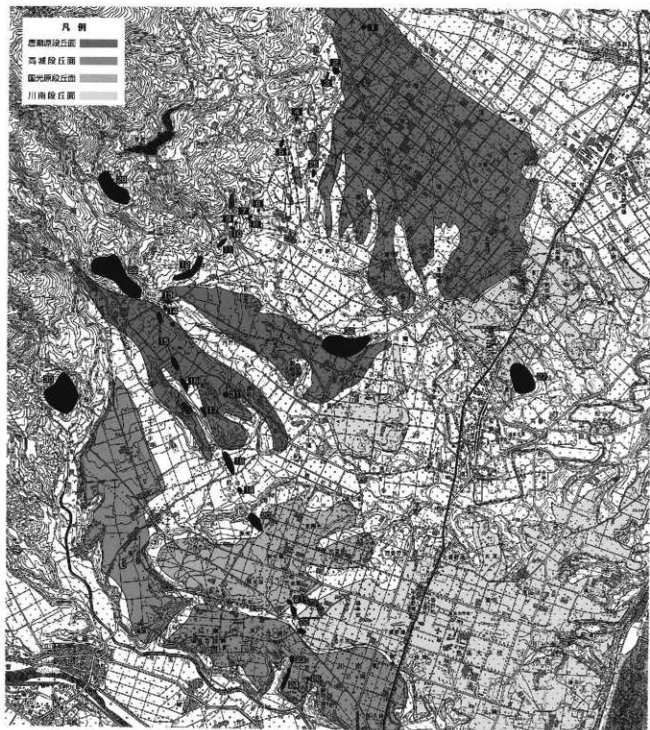
(縄文時代)

川南町の発掘調査された縄文時代の遺跡は、近年の東九州自動車道建設に伴って計27箇所に増えている。内、縄文時代草創期5箇所、早期の遺跡は26箇所、前期3箇所、中期1箇所、後期3箇所、晩期1箇所である。草創期の遺跡では、陸起線(隆帯)文土器の伴う石器群が確認された赤石・天神本遺跡がある。縄文時代早期では、集石遺構がほぼ全ての遺跡で確認されている。尾花坂上遺跡では、計34基の集石遺構が確認され、礫形状の比較より、検出された集石遺構は準備礫や廃棄礫の可能性が高いことが裏付けられている。天神本第2遺跡では、石鏃未製品や砕片が製品と共に出土し、石器製作跡と考えられている。霧島遺跡では無文土器が単独出土している。

前期としては尾花A遺跡で轟B式・曾畑式土器が集石遺構に伴って出土している。また、市納上第4遺跡では中期の阿高式系や後期の指宿式土器が出土している。

主な参考文献

川南町 1983『川南町史』、川南町教育委員会
1983『川南町の埋蔵文化財』遺跡詳細分布調査報告書、川南町教育委員会
2002『後牟田遺跡』宮崎県川南町後牟田遺跡における旧石器時代の研究、宮崎県埋蔵文化財センター
2002『尾花坂上遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第101集、宮崎県埋蔵文化財センター
2005『東九州自動車道(都農～西都間)関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書V』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第111集、宮崎県埋蔵文化財センター
2006『虚空蔵免遺跡、赤石・天神本遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第122集



- | | | | |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 1 銀座第1遺跡 | 2 銀座第2遺跡 | 3 銀座第3B遺跡 | 4 登り口第1遺跡 |
| 5 登り口第2遺跡 | 6 市納上第1遺跡 | 7 市納上第2遺跡 | 8 市納上第3遺跡 |
| 9 市納上第4遺跡 | 10 市納上第5遺跡 | 11 虚空蔵免遺跡 | 12 赤石・天神本遺跡 |
| 13 天神本第2遺跡 | 14 大内原遺跡 | 15 中ノ迫第1遺跡 | 16 中ノ迫第2遺跡 |
| 17 中ノ迫第3遺跡 | 18 前ノ田村上第1遺跡 | 19 前ノ田村上第2遺跡 | 20 赤坂遺跡 |
| 21 国光原遺跡 | 22 湯牟田遺跡 | 23 西ノ別府遺跡 | 24 尾花A遺跡 |
| 25 霧島遺跡 | 26 尾花板上遺跡 | 27 後牟田遺跡 | 28 権原遺跡 |
| 29 住吉B遺跡 | 30 白鬚遺跡 | 31 中ノ迫A遺跡 | 32 桶風呂遺跡 |

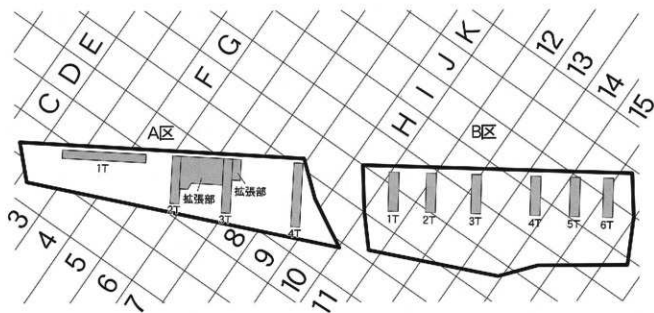
※1~24 東九州自動車道関連遺跡

第1図 遺跡位置・周辺遺跡分布図



第2図 周辺地形と調査グリッド配置図

0 100m



第3図 確認調査トレンチ配置図

0 50m

第三章 調査の方法と経過・概要

第1節 確認調査の概要

本遺跡の確認調査は、平成16年5月24日から7月7日に実施した。また、中ノ迫第3遺跡から南西の台地端部に立地する中ノ迫第4遺跡の確認調査も同時に行った。中ノ迫第3遺跡に関しては調査区を便宜上A～D区に分け、旧地形を考慮したトレンチをA区4箇所、B区6箇所、C区10箇所、D区4箇所を設定した。トレンチは、重機で表土を除去した後人力により掘削を行い遺構・遺物の確認に努めた。

遺構が検出されたトレンチについては遺構分布図を作成し、本調査まで保存した。遺物に関しては出土したトレンチと層・位置を記録し取り上げを行った。トレンチ配置図及び確認遺構・遺物は次の通りである(第3図・第7～11表)。

調査の結果、調査区A区はIV層・V層にて集石遺構と貝殻条痕文土器や剥片、B区ではIV・V層で集石遺構・陥し穴と貝殻条痕文土器・石鏃等を、VI層で剥片を確認した。C・D区に関しては、包含層が残存していなかった。よって、本調査はA・B区とし、B区に関しては大幅な削平を受けた南西部を除外し、結果、2,560m²を対象とした。

第2節 発掘調査の方法と経過

調査区を先ず、私道を挟んで北を調査区A区、南を調査区B区とした。確認調査の結果から、後期旧石器時代と縄文時代早期の文化層が予想されていたので、縄文時代早期の文化層に関しては全面調査を行い、後期旧石器時代の文化層からはB区を地形に考慮した形(約2.5m×12m)の先行トレンチを設定、A区は業者委託により設定した10mグリッド(南北方向数字1～、東西方向英字A～)を付した区画内を基準に25%掘りし、調査区の一部を掘り下げた後、遺構・遺物が確認された場合のみに拡張を行う方法で遂行した。調査区内の状況は、以前は隣接する人家の畑地や産廃場として利用されていたため、多くがアカホヤ火山灰層下の縄文時代早期包含層下位まで削平され、且つ産廃用の穴(50×80×50cm)がA区南側に密集するように広がっていた。

調査は、平成16年11月29日の重機による表土剥

ぎから始まる。表土下は遺構・遺物が確認出来ず、アカホヤ火山灰層上面まで除去し精査を行った。結果遺構と考えられる跡は確認出来なかった。重機での火山灰層除去を排土処理関係よりB区から行い、次にA区に移った。12月24日から、業者委託によるグリッド杭打ちが始まる。グリッド杭設定後のB区では作業員による縄文時代早期包含層の掘削を行い、同時に調査員が遺構検出状況撮影・実測・遺物取り上げを行った。遺構は、基本的に縮尺1/10、遺物に関しては縄文時代早期をグリッド、後期旧石器時代を光波トランシットによる座標記録で行った。遺構の状況は35mmカメラにて記録保存した。調査は基本的にB区優先に行い、実測等の進行の兼ね合いを考慮しつつA区に作業員を配置し同時に縄文時代早期包含層の掘削を行った。1月7日には縄文時代包含層のV層上面にて炉穴と思われるにじみを3箇所検出する。1月28日、先行して掘り下げを行ったB区VI層にて礫群1基を検出する。2月22日、縄文時代早期面を中心とした空掘を行う。終了後、B区は先行トレンチを優先しながら後期旧石器時代包含層の掘り下げを行う。その間、A区では集石遺構の実測を行った(集石遺構:総数A区23基・B区9基)。5月13日からVI層上面まで掘り下げプランを確定した炉穴・土坑の半載・実測を行う。6月8日、両調査区内の排土搬出と調査区外の排土填圧を行う。A区は、7月17日からグリッド内の掘削を行い、7月28日遺跡内の調査終了。8月4日まで、集石遺構の礫整理を行った。

第3節 整理作業及び報告書作成

整理作業は、本調査終了後当センター本館において平成17年9月～平成18年10月まで行った。遺物の整理に関しては16年度中に水洗、注記、土器接合、拓本まで行い17～18年度に残り作業を行った。なお、後期旧石器時代の礫群の礫については、東睦原整理作業事務所において、水洗、注記、計測、接合を行った。

第IV章 調査の記録

第1節 基本土層と土層堆積

本遺跡の土層堆積はA区北東からB区南西に関し
ては緩やかに傾斜しており、各層は比較的順序よく
堆積していると言える。土層柱状図は第4図、土層
断面測定箇所と土層断面図は第5～7図を参照され
たい。柱状図はA区土層を軸に作成し、下層の残存
しない層については堆積状況が良好なB区土層を追
加した。

I層 表土(耕作土)

II層 黒色土

III層 黄橙色土 (Hue7.5YR7/8)

アカホヤ火山灰。K-Ah。下部層界から5cmく
らいはしっかり残るが、上部はやや酸化してい
る。

IV層 黒色土 (Hue2.5Y2/1)

MB0。アカホヤとの層界が不明瞭。2mm大の
橙色 (Hue7.5YR6/8) 粒を少量含む。白い砂
粒 (2mm) を多く含む。

V層 褐灰色 (Hue10YR5/1) ～

灰黄褐色土 (Hue10YR5/2)

密なローム、下部約1/4はVI層土が浮き上った
感じで、下部層界がやや不明瞭。

VI層 にぶい黄褐色土

(Hue10YR6/3～Hue10YR6/6)

小林軽石を含む褐色ローム層。

VII層 灰黄褐色土 (Hue10YR5/2)

ML2相当。ATの2次堆積土を基調とする。AT
の浮き上がりが多く、下部層界がやや不明瞭。
水成作用を受けたか。黒色ローム粒を1mm大
で含む。

VIII層 黄橙色土 (Hue10YR7/8)

AT。やや褐色土に近く酸化しもろくなった部
分が多い。あまり良好な堆積状況ではない。二
次的な堆積も推測される。

IX層 黒褐色 (Hue10YR3/1) ～

褐灰色土 (Hue5YR4/1)

概ね良好な堆積状況だが、上位からATが入り
こんだところも多い。白色砂粒を多く含む(上

部層界から3/5くらいまで)。下部の2/5は明
るい色(灰褐色土。Hue5YR4/2)で白色砂粒
が見られない。上部3/5に堆積した部分をMB2、
下部2/5に堆積した部分をMB3にあてることが
できると考える。

Xa層 橙色土 (Hue7.5YR6/6)

強粘土だが、2mm大の粒状にまとまりやすい。
やや粗い粘土。下部層界から1～2cmは粘質化、
酸化(粒状)が進んでいる。水成作用の結果か。

Xb層 にぶい黄橙色土 (Hue10YR7/4)

密にしまる。4mm大の黄色・1cm大の黒褐色
土を少し含む。

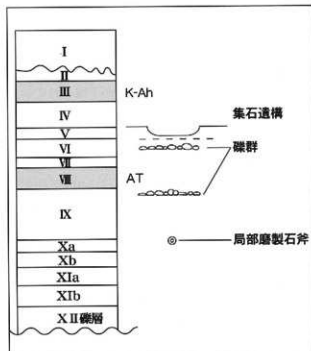
XIa層 にぶい橙色土 (Hue7.5YR6/4)

4mm大の黄色パミスを少し含む。

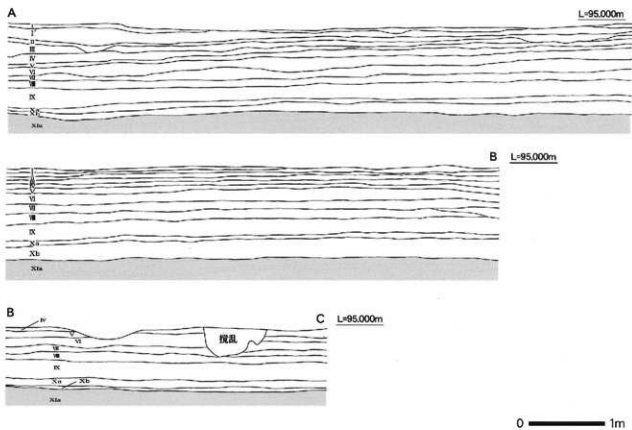
XIb層 橙色土 (Hue2.5YR6/8)

10～20cm大の尾鈴山酸性岩類を多く含む箇所
が調査区の約1/3。2mm大の白色砂粒、アワ
オコシに由来する2mm大の赤色パミスを多く
含む。粗いが、非常に密にしまっている。強
く酸化して鉄サビ色をしている。

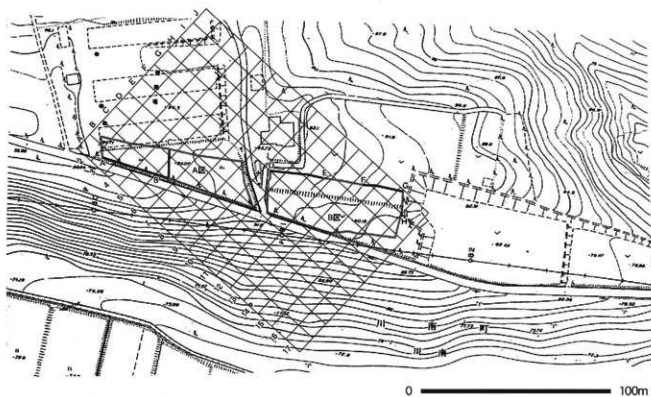
XII層 礫層



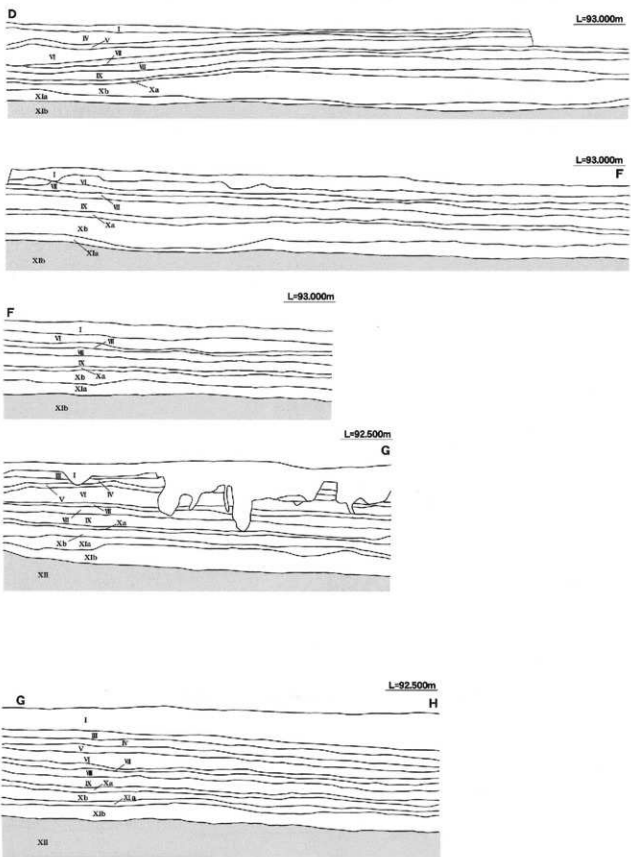
第4図 土層柱状図



第5図 土層断面図(1)



第6図 グリッド配置図・土層断面位置図



第7图 土层断面图(2)

第2節 後期旧石器時代の遺構と遺物

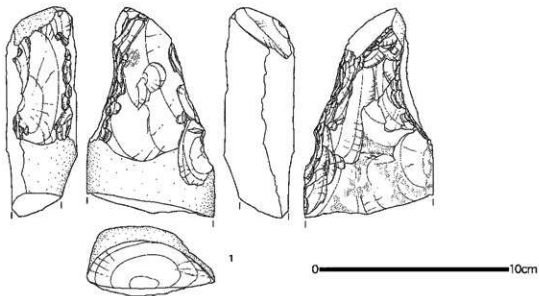
後期旧石器時代の調査は、A区はグリッド調査、B区はトレンチ調査を行った。調査面積は約280m²である。調査区の当時の地形は、北東から南西に緩やかに傾斜している。遺構はIX層上面より礫群1基を、VI層から礫群6基の計7基、土坑3基を検出した。遺物は、局部磨製石斧、ナイフ形石器、角錐状石器、細石刃、石核、剥片等が出土している。中ノ迫第3遺跡では、後期旧石器時代の文化層が計4枚確認された。よって、下層よりI～IV期として報告する。

1 旧石器時代I期

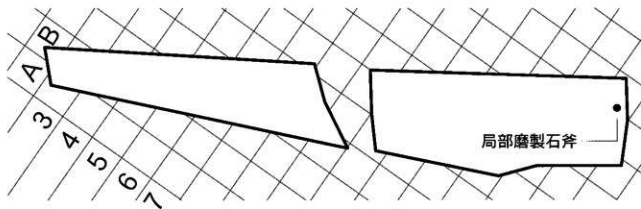
MB2・3相当層（IX層）下位のXa層を旧石器時代I期とする。総調査面積は280m²。遺構は見られず、局部磨製石斧1点のみの出土である。出土位置はB区南西側であり、I16dグリッド、IX層除去後のXa層上面精査時に出土した（第9図）。周囲に遺物が広がる可能性を考慮し、拡張・精査を行ったが遺物は出土していない。

局部磨製石斧（第8図）

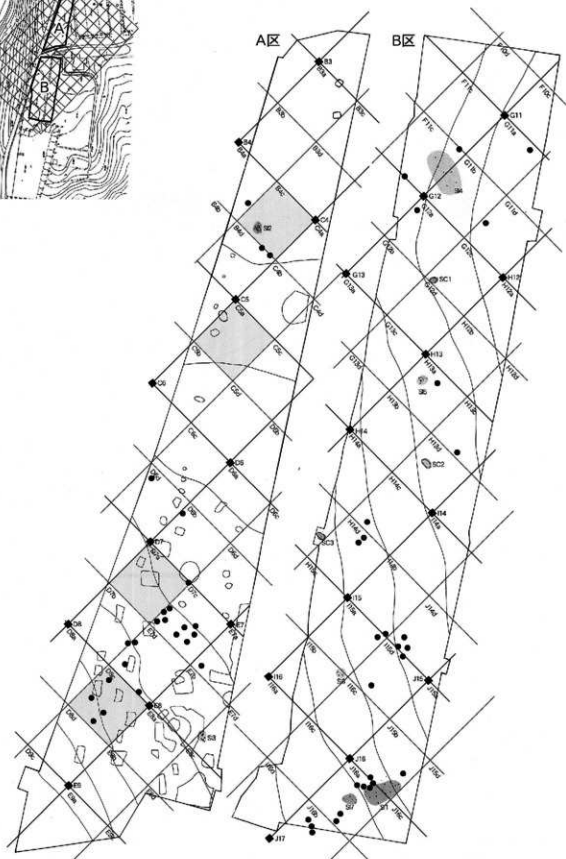
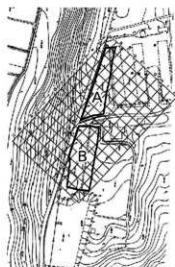
石材は、緑色珪質岩である。形状は縦長楕円形の円礫を縦に半裁し、両側から敲き、剥離を施している。裏面には、使用痕が見られる。



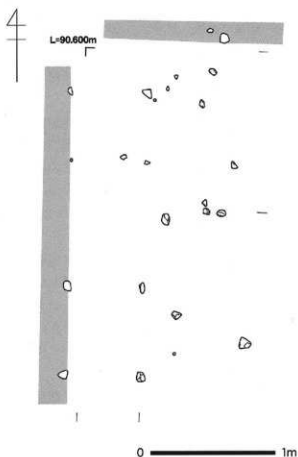
第8図 旧石器時代I期遺物実測図



第9図 旧石器時代I期遺物出土位置図



第10図 旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期調査範囲・遺構分布図(・遺物)



第11図 旧石器時代Ⅱ期遺構実測図(S11)

2 旧石器時代Ⅱ期

A T降灰直前のMB2中 (IX層) の礫群に伴う石器群を旧石器時代Ⅱ期とする。調査区内の堆積は、南北方向に良好に残存した。調査面積は280m²である。遺構は、B区南東側にて礫群1基を検出した。遺物は、剥片2点のみである。

礫 群

IX層検出の礫群は、調査部のIX層上面また層間には礫片等を密に含まないことから、軽量のもので一定のまとまりが見られる場合は礫群と判断した。

S1 (第11図)

礫群は、J15b・J16aグリッド内の2.6m×1.5mの範囲内にばらけた状況で広がる。2g~434gの軽量の尾鈴山酸性岩類により構成され、掘り込みや炭化物・焼土は検出されなかった。構成礫の尾鈴山酸性岩類の多くが自然面より破砕面の割合が多く見られた。赤化は、明瞭に赤化しているものが半数見られた。

遺 物

剥片

剥片は、5cm大の頁岩源ホルンフェルス製である。図化はしていない。

3 旧石器時代Ⅲ期

Kr-Kbを僅かに含む褐色ローム層 (VI層) の礫群に伴う石器群を旧石器時代Ⅲ期とする。また、IV・V層下位・VII層から後期旧石器時代の遺物も含まれることから土中内で遺物の上下移動があったと考え、これらの遺物も含める。VI層も他層と同様に均一に堆積しているが、部分的に堆積差がみられる。平均層厚は7cmである。調査面積は280m²。遺構は礫群6基、土坑2基が検出された。遺物はナイフ形石器 (3点) ・角錐状石器 (2点) ・細石刃 (6点) ・石核 (2点) ・蔽石 (2点) 剥片等が出土した。細石刃核は出土しなかった。遺物の集中は、D7・D8・I14・J16グリッドに見られた。又、蔽石についてはP55・56に掲載している。

礫 群

各礫群の分布状況は、北東側の礫群については散発的に見られるが南西側の3基については比較的まとまりをもって検出された。掘り込みあるものは6基中1基であり、炭化物も見られた。構成礫は、尾鈴山酸性岩類であり自然面より破砕面の方が大きい傾向にある。

S2 (第12図)

A区北端B4cグリッド内の1m×0.8mの範囲内に密集する。9.5~210gの44点の尾鈴山酸性岩類により構成される。掘り込みがあり、礫間や下部に炭化物が少量認められた。礫密集部は周囲に比べ、若干色調が暗い状況であった。

S3 (第12図)

A区南端E7b・E7dグリッドの1.1m×0.56m内に比較的に密集した状況で検出された。29~1400gの大型の尾鈴山酸性岩類9点で構成される。掘り込み、炭化物・焼土は検出されなかった。赤化については、淡く赤化しているものが多く見られた。

S4 (第12図)

B区北東側F11d・G11bグリッドで検出された。1

m×1.1mの範囲内にまとまりをみせる。

SI5 (第12図)

B区北東側H13aグリッドで検出された。0.8m×0.8mの範囲内にまとまりをみせる。構成する12点の尾鈴山酸性岩類は80～365gの礫であり、自然面が破砕面より多い。赤化は、全ての礫で明瞭に確認された。

SI6 (第12図)

B区南西側I15bグリッド内の0.6m×0.35mの範囲内で検出された。構成礫は尾鈴山酸性岩類7点で10～230gの亜円礫や亜角礫からなり、全てに明瞭な赤化がみられた。掘り込み・炭化物・焼土は検出されなかった。また、遺構内や周囲からはホルンフェルスの剥片が出土している。

SI7 (第12図)

B区南西側J16aグリッドで検出された。1.3m×0.6mの範囲内にまとまりをみせる。構成する6点の尾鈴山酸性岩類で亜円・亜角礫主体である。赤化は、全ての礫で確認された。

土 坑

埋土中に時期決定できる遺物が確認出来ず、定かでないがここに記しておく。VI層に帰属させる理由は、V層でのにじみは確認出来ずVI層中部まで掘り下げ後に検出したことなどから考慮した。VI層検出の土坑は2基で、B区北半に分布していた。

SC1 (第12図)

G12c・dグリッドVI層で検出した。検出状況は長軸0.7m×短軸0.57mで深さ0.18mの楕円形に近い不定形な形状を呈する。埋土は1層のみで、剥片1点が出土した。

SC2 (第12図)

H13dグリッドVI層で検出した。検出上面は円形に近い形状の長径0.93m×短径0.86mで深さ0.16mである。出土遺物はないが、1層で焼土粒が確認された。

遺 物 (第13図2～21)

VI層からは遺物集中部3箇所を中心に50点が出土している。平面的な広がり、A区南側やB区南側

にかたよがりが見られた。遺物出土層位のピークはVI層上～中部である。ただし、A区南側D7・D8・E8グリッドにはSP2があり、十分に見出し遺物を取り上げたが埋土中のものが含まれている可能性も考えられる。

ナイフ形石器は、横長剥片素材のものが多くみられた。特に2は瀬戸内技法との関連が強い石器である。角錐状石器は横長剥片素材で、小形のものが多く。特にチャート製の角錐状石器はより小ぶりである。剥片類は、ナイフ形石器の素材剥片と異なり、縦長剥片を指向したものが多く。

接合資料は、石核から不定形な小ぶりの剥片を剥離するものがある。また、接合は未確認ながら、石核は特に打面を固定するものではなく、ランダムに小ぶりの不定形剥片を剥離するもので占められる。

4 旧石器時代IV期

旧石器時代III期の石器群に混在して、細石刃が出土した。細石刃核はない。これらについては、周辺遺跡の状況等を加味して、旧石器時代IV期とする。剥片類については、どういったものがあるのか明確にしえなかった。

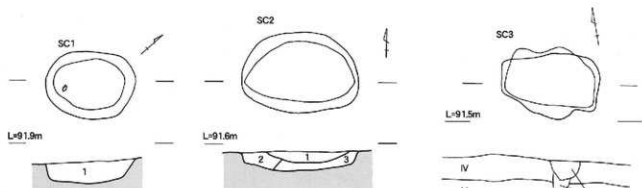
土 坑

SC3 (第12図)

この時期の遺構については明確にしえないが、陥し穴状遺構はその掘り込み面がML1最下部付近にあることから、この時期にあたる可能性がある。

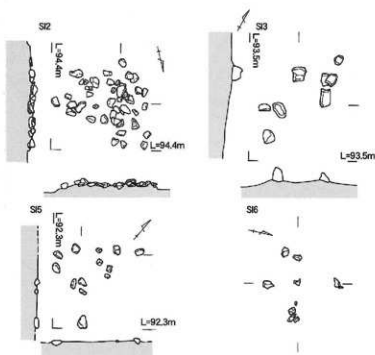
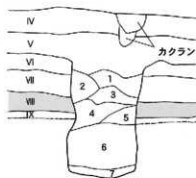
遺 物 (第13図22～27)

細石刃は6点ある。すべてホルンフェルス製で、打面の残るものにはすべて作業面調整がみとれる。



土坑土層注記

- SC 1 1. 暗褐色土Hue10YR3/4, 粘性弱くしまりあり。
 SC 2 1. 暗褐色土10YR3/4, 粘性弱くしまりあり, 焼土粒を含む。2. 褐色土10YR4/4, 粘性やや弱く、ややしまりあり。3. にぶい黄褐色10YR4/3, 粘性あり。
 SC 3 1. 暗褐色土Hue10YR3/3, ややしまり有り, 1~2程度の橙色粒子を含む固くしまったブロックや粘性の有る褐色土を含む。2. 暗褐色土Hue10YR3/3, ややしまり有り, 粘性の有るブロックが含まれる。3. 暗褐色土Hue10YR3/4, 非常に固くしまる, 1mm程度の白色・橙色粒子やしまりの強い暗褐色ブロックを含む。4. 暗褐色土Hue10YR3/4, 固くしまる中にしまりの弱い黄褐色土が混じる。5. 黄褐色土 Hue10YR5/6, 非常に軟らかく、粘性有り, Hue10YR4/3にぶい黄褐色土を多く含む。6. 褐色土Hue10YR4/6, しまり弱く、粘性無し。7. 褐色土Hue10YR3/4, しまり弱く、粘性無し。



0 ————— 1m

第12図 旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期遺構実測図



第13圖 旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期遺物実測図

第Ⅱ期-S1

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	19	0	9	2	8	8 段階	1	2	3	4
重量(g)	2423.0	0.0	73.0	128.0	2222.0	個数(点)	2	5	1	11

備考：2.6×1.5mに散布し、密度が低い。周囲に焼土や炭化物は見られない。

第Ⅲ期-S2

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	44	0	14	10	20	8 段階	1	2	3	4
重量(g)	4114.5	0.0	419.5	775.0	2920.0	個数(点)	1	11	21	11

備考：1.0×0.8mに密集する。縦間や下部に炭化物が少量認められた。濃密集部は周囲に比べ土色が若干暗かった。掘り込み有り。

第Ⅲ期-S3

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	9	0	1	0	8	8 段階	1	2	3	4
重量(g)	6060.0	0.0	29.0	0.0	6031.0	個数(点)	1	6	1	1

備考：1.1×0.56m内に比較的密集した状態で検出した。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-S5

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	12	0	0	1	11	8 段階	1	2	3	4
重量(g)	2485.0	0.0	0.0	80.0	2405.0	個数(点)	4	6	2	0

備考：0.8×0.8m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-S6

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	7	0	1	1	5	5 段階	1	2	3	4
重量(g)	944.0	0.0	10.0	98.0	836.0	個数(点)	1	3	3	0

備考：0.6×0.35m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-S7

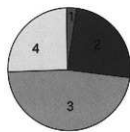
石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)			構成線の破砕状況				
			<50	<100	100<					
個数(点)	6	0	-	-	-	段階	1	2	3	4
重量(g)	0.0	0.0	-	-	-	個数(点)	-	-	-	-

備考：1.3×0.6m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅱ期-S1



第Ⅲ期-S2



第Ⅲ期-S3



第Ⅲ期-S5



第Ⅲ期-S6



構成線の破砕状況分類基準

1	ほぼ自然面で構成される
2	自然面>破砕面
3	破砕面>自然面
4	破砕面のみで構成される

第1表 観群観察表(1)

SI 1

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破砕状況	被熱状況
II	1	J15b・J15a	IX	2.0	4 破	
II	2	J15b・J15a	IX	114.0	4 破	
II	3	J15b・J15a	IX	3.0	4 強	
II	4	J15b・J15a	IX	2.0	4 破	
II	5	J15b・J15a	IX	54.0	4 強	
II	6	J15b・J15a	IX	4.0	4 破	
II	7	J15b・J15a	IX	5.0	4 強	
II	8	J15b・J15a	IX	6.0	4 強	
II	9	J15b・J15a	IX	22.0	4 強	
II	10	J15b・J15a	IX	25.0	4 破	
II	11	J15b・J15a	IX	74.0	2 強	
II	12	J15b・J15a	IX	186.0	3 破	
II	13	J15b・J15a	IX	360.0	2 破	
II	14	J15b・J15a	IX	360.0	2 強	
II	15	J15b・J15a	IX	298.0	2 強	
II	16	J15b・J15a	IX	196.0	2 破	
II	17	J15b・J15a	IX	3.0	4 破	
II	18	J15b・J15a	IX	434.0	1 強	
II	19	J15b・J15a	IX	304.0	1 強	
II	19	J15b・J15a	IX	2423.0		

SI 3

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破砕状況	被熱状況
III	1	E7b・E7d	VI	730.0	1 破	
III	2	E7b・E7d	VI	685.0	2 強	
III	3	E7b・E7d	VI	238.0	3 破	
III	4	E7b・E7d	VI	1070.0	2 破	
III	5	E7b・E7d	VI	448.0	2 破	
III	6	E7b・E7d	VI	1160.0	2 破	
III	7	E7b・E7d	VI	1400.0	2 破	
III	8	E7b・E7d	VI	300.0	2 強	
III	9	E7b・E7d	VI	29.0	4 破	
III	9	E7b・E7d	VI	6060.0		

SI 5

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破砕状況	被熱状況
III	1	H13a	VI	200.0	3 強	
III	2	H13a	VI	270.0	2 強	
III	3	H13a	VI	120.0	3 強	
III	4	H13a	VI	365.0	2 強	
III	5	H13a	VI	115.0	2 強	
III	6	H13a	VI	145.0	2 強	
III	7	H13a	VI	275.0	1 強	
III	8	H13a	VI	80.0	2 強	
III	10	H13a	VI	315.0	1 強	
III	11	H13a	VI	180.0	2 強	
III	12	H13a	VI	250.0	1 強	
III	13	H13a	VI	170.0	1 強	
III	12	H13a	VI	2485.0		

SI 6

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破砕状況	被熱状況
III	1	I15b	VI	230.0	2 強	
III	2	I15b	VI	10.0	2 強	
III	3	I15b	VI	134.0	2 強	
III	4	I15b	VI	216.0	1 破	
III	5	I15b	VI	126.0	3 強	
III	6	I15b	VI	96.0	3 強	
III	7	I15b	VI	130.0	3 強	
III	7	I15b	VI	944.0		

SI 2

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破砕状況	被熱状況
III	1	B4c	VI	9.5	2 弱	
III	2	B4c	VI	165.0	2 弱	
III	3	B4c	VI	140.0	2 弱	
III	4	B4c	VI	45.0	2 弱	
III	5	B4c	VI	85.0	3 強	
III	6	B4c	VI	90.0	4 弱	
III	7	B4c	VI	115.0	3 強	
III	8	B4c	VI	165.0	3 強	
III	9	B4c	VI	55.0	4 強	
III	10	B4c	VI	205.0	2 弱	
III	11	B4c	VI	85.0	2 強	
III	12	B4c	VI	25.0	4 弱	
III	13	B4c	VI	35.0	4 強	
III	14	B4c	VI	115.0	2 強	
III	15	B4c	VI	105.0	4 弱	
III	16	B4c	VI	150.0	2 強	
III	17	B4c	VI	45.0	2 弱	
III	18	B4c	VI	115.0	1 破	
III	19	B4c	VI	10.0	4 強	
III	20	B4c	VI	135.0	3 破	
III	21	B4c	VI	75.0	3 破	
III	22	B4c	VI	150.0	2 破	
III	23	B4c	VI	115.0	3 破	
III	24	B4c	VI	1445.0	3 破	
III	25	B4c	VI	30.0	4 弱	
III	26	B4c	VI	75.0	3 弱	
III	27	B4c	VI	125.0	3 弱	
III	28	B4c	VI	100.0	2 弱	
III	29	B4c	VI	95.0	3 弱	
III	30	B4c	VI	200.0	3 弱	
III	31	B4c	VI	50.0	3 弱	
III	32	B4c	VI	30.0	3 弱	
III	33	B4c	VI	135.0	3 弱	
III	34	B4c	VI	205.0	3 強	
III	35	B4c	VI	45.0	3 弱	
III	36	B4c	VI	125.0	3 弱	
III	37	B4c	VI	65.0	3 弱	
III	38	B4c	VI	70.0	3 弱	
III	39	B4c	VI	80.0	3 弱	
III	40	B4c	VI	210.0	4 弱	
III	41	B4c	VI	10.0	4 弱	
III	42	B4c	VI	35.0	4 弱	
III	43	B4c	VI	35.0	4 弱	
III	44	B4c	VI	150.0	4 弱	
III	44	B4c	VI	4114.5		

*破砕状況については、構成する1塊の状態を示す。

- 1, ほぼ自然面で構成される
- 2, 自然面>破砕面
- 3, 破砕面>自然面
- 4, 破砕面のみで構成される

*被熱状況

- 強, 明確に赤化しているもの
弱, 淡く赤化しているもの

第2表 礫群観察表(2)

第3節 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の調査は、調査区全面の2,560m²を対象とした。調査区の当時の地形は、北東から南西に緩やかに傾斜している。遺構は、集石遺構32基、炉穴21基、土坑11基で、遺物は石鏝や礫器等が出土している(第14図)。

集石遺構は、IV層下部・V層上面から多量に散乱する礫(散礫)中又はその下より検出され、この散礫を除去した後一定の石のまとまりをもつものを集石遺構として認定し実測を行った。

1 集石遺構 (第15～18図)

集石遺構は調査区A・B区合わせて32基確認され、IV層下部からV層上部の間にピークが見られた。分布は、調査区のほぼ半数が縄文時代早期包含層まで削平を受けているため不確かな部分もあるが、残存する状況から見てもA区南部とB区北部に集中部が見られた。

分類は、アカホヤ下に良好な状態で検出された10基を先に分類し(I～Ⅲ類)、その後、上部が削平を受ける・あるいは攪乱下で検出された集石遺構は完全に残っていないことを考慮し、分類に「J」を追加した。たとえばI類の場合はI'類となる。

分類基準は以下の通りである。

I類: 掘り込みをもち、他の礫よりも大型で意図的に配置された礫(配石)があるもの。(SI8)

I'類: (SI9、SI10-1、SI11)

II類: 掘り込みをもち、配石が無いもの。

(SI14、SI20、SI24、SI25、SI27、SI28、SI29、SI30)

II'類: (SI10-2、SI12、SI13、SI15、SI16、SI17、SI18、SI19、SI21、SI22、SI23、SI26、SI31、SI32、SI33、SI34、SI35)

III類: 掘り込みを持たないもの。(SI37)

III'類: (SI36)

IV類: その他。掘り込みをもち、中央に大型の礫1点を配するもの。(SI38)

各集石遺構の詳細は、第3・4表の観察表に示した。その中で特異な例として、I類のSI8配石が掘り込み壁に沿うような礫配置であったこと、II類のSI29が1基の集石遺構から礫・埋土を掻き出した結

果、2基に見えたことが挙げられる。

2 炉穴 (第19～21図)

本遺跡からは、21基の炉穴を検出した。認定条件は、長楕円形の形態で底面に焼土面か焼土を多量に混じる場合とした。遺跡内では、円形状を呈し焼土をまばらに含むものも確認されているが、掘り込みが浅いものについては土坑として記載している。検出した炉穴は2類に分類できる。

I類: 単独のもの(1基)

II類: 切り合いを有するもの(4群-計20基)

分布は、A区に2群、B区に1群と2基が緩やかに傾斜する面(標高90～95m間)に対し構築されている。検出は、V層又はVI層であったがぼんやりとにじむ程度であることから実測した面はそれより下がっている。以下、分類ごとに順に記す。

I類:

SP3 B区北部のV層下部より検出した。周囲には礫がまばらに広がるが、集石遺構はみられない。

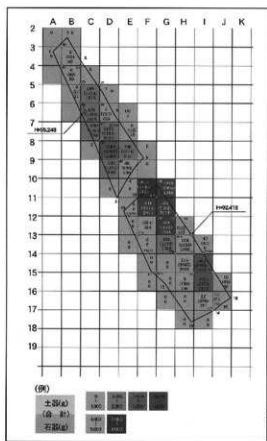
II類:

SP1 A区北部のVI層中部より検出した。4基の炉穴が切り合い、西から東へ新しく構築されている。また、掘り込みは新しいもの程、深い傾向がみられる。炉部については、1～3が西から北、4が東に確認された。

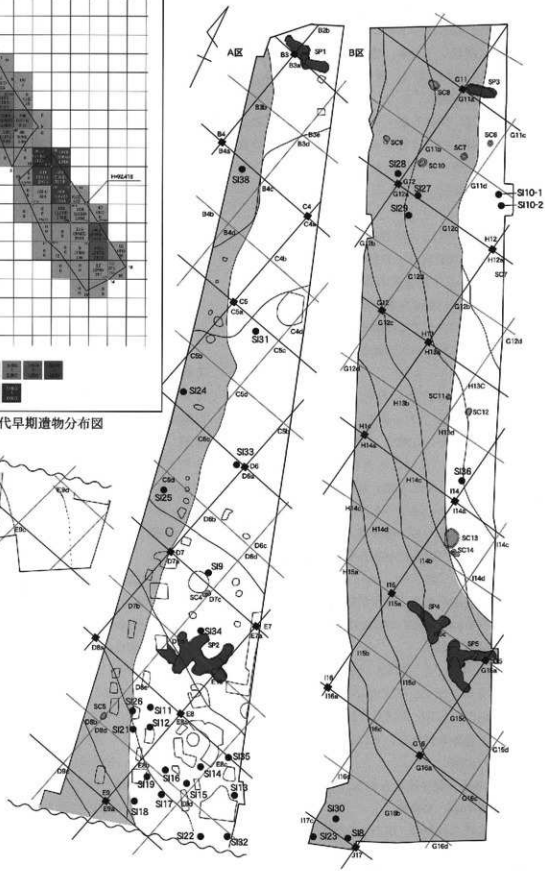
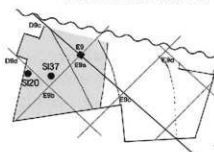
SP2 A区南部のV層より検出した。明らかに確定できたものは7基であるが、中央部に攪乱がみられたことやその下に焼土粒がまとまってみられることから数基切り合っていた可能性も考えられる。残存状況から、1・2・3については古い順に1・2→3、4・5・6については不明、7→6である。

SP4 B区中程のV層下部より検出した。4基の炉穴が切り合い、古い方から3→4・1→2の順である。4については、3が堆積した後に築造されたと考えられる。V層精査時に焼土粒が確認された。

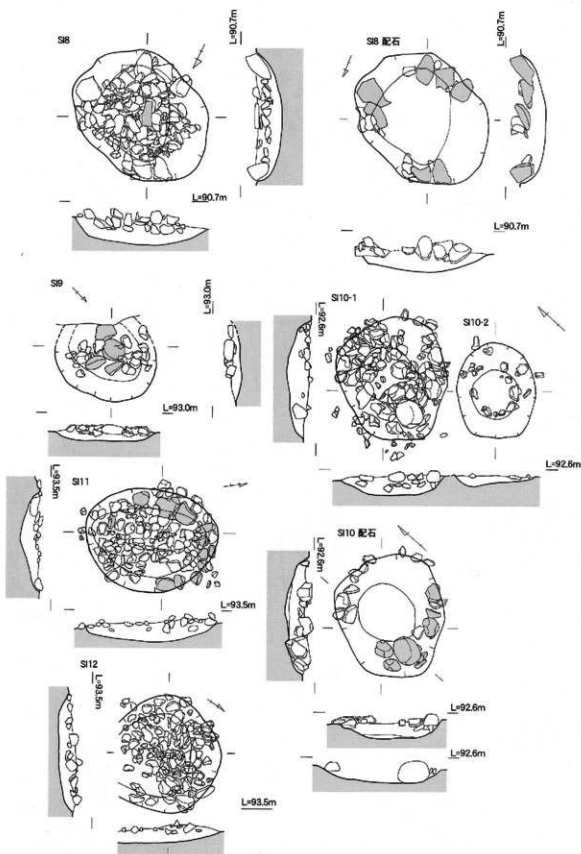
SP5 B区中程のVI層より検出した。SP4に隣接し、5基が切り合う。築造順は3→4・1→2で5が切っている。5については南端にブリッジがみられ、炉部側検出面には台石が出土した。また、埋土中部からは砥石が出土した。



縄文時代早期遺物分布図

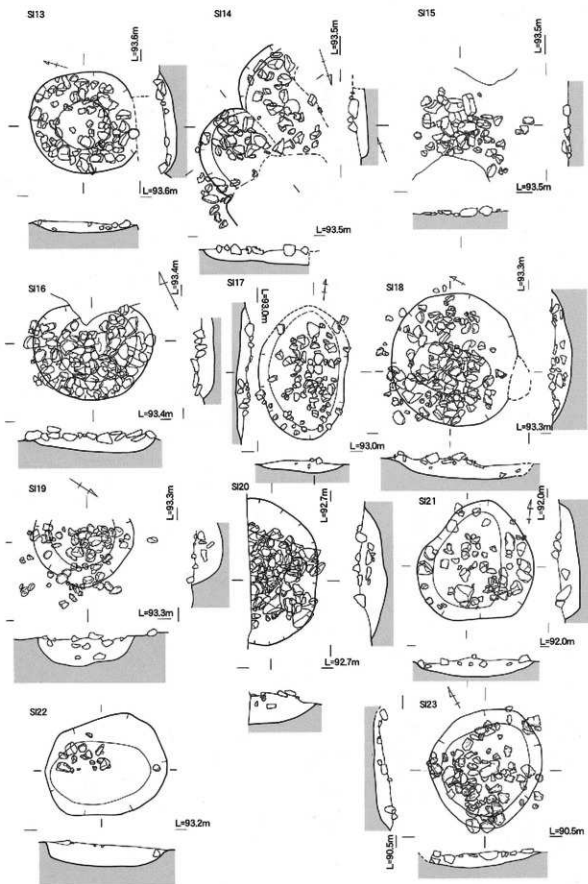


第14図 縄文時代早期遺構・遺物分布図



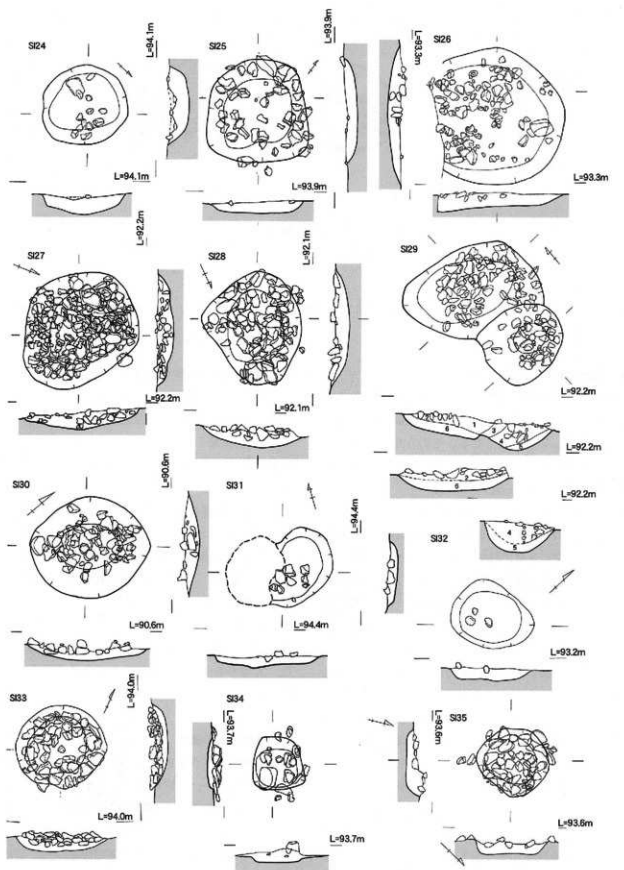
第15図 集石遺構実測図 (1)

0 ————— 1m



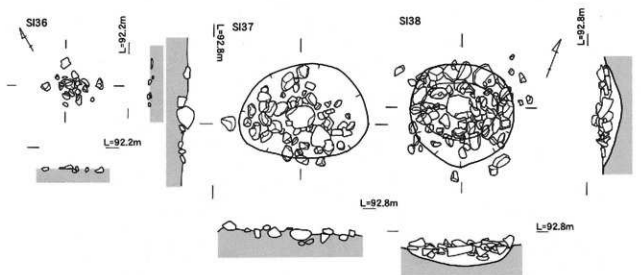
第16図 集石遺構実測図 (2)

0 ————— 1m



第17图 集石遺構実測図 (3)

0 ————— 1m



第18図 集石遺構実測図(4)

0 ————— 1m

3 出土土器 (第23~27図)

第IV層~第VI層上部にかけて、縄文時代早期に位置付けられる土器が出土した。出土位置のピークはIV層下部からV層上部である。そのうち土器の文様からI~Ⅲ類に大分類が可能で、さらにⅡ類はⅡ類-I・Ⅱに細分される。

I 類：押型文土器群。外面、内面共に横回転の山形押型文。内器面は横回転の山形押型文、下位に斜め方向の強いナデあり。

Ⅱ類-I：貝殻条痕文土器群。外面の大半に貝殻条痕文を施し、口縁部に縦位一段の貝殻腹縁刺突を巡らせるもの。刺突は間隔が粗いものと密のものに分けられる。

Ⅱ類-II：外面の大半が斜め方向の貝殻条痕文が施されるもの。出土した土器片の多くがこの一群である。破片資料が多いが、39はほぼ完形に復元できた。器形を確認すると多くが胴部付近で膨らむものが多い。

Ⅲ 類：無文土器群。外面がナデのみの調整。

底部形態は、平らで下端は丸みがあるもの、底部が大きく開き底面が平らなもの、底部が直線的に立ち上がり、且つ底面が広く下端の稜がはっきりしているものがある。

4 出土石器 (第28~46図)

石器については、コンテナ23箱分出土した。

石斧・礮器・石核は、出土遺物の内、大型の石器である。出土層のピークはやはりIV・V層の境であり、集石遺構に伴う時期と考えられる。各遺物の認定基準は下記のとおりである。

石斧は、刃部と基部より構成される形状であり明瞭に石斧と思われるものとした。刃部には両刃・片刃がある。礮器は、刃部加工が使用痕を残すものとした。石核は、こぶし大の礫で剥片をとったものあるいは調整がみられるものとした。

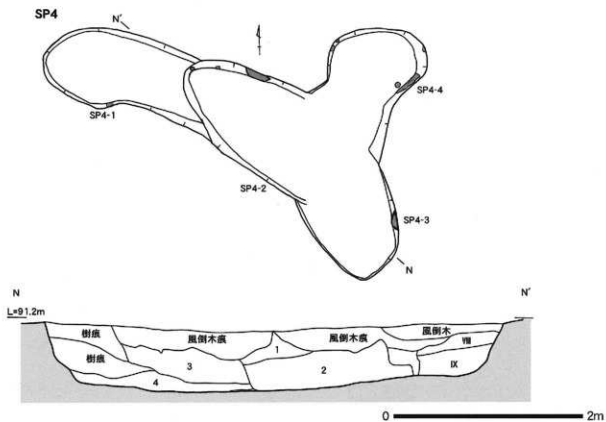
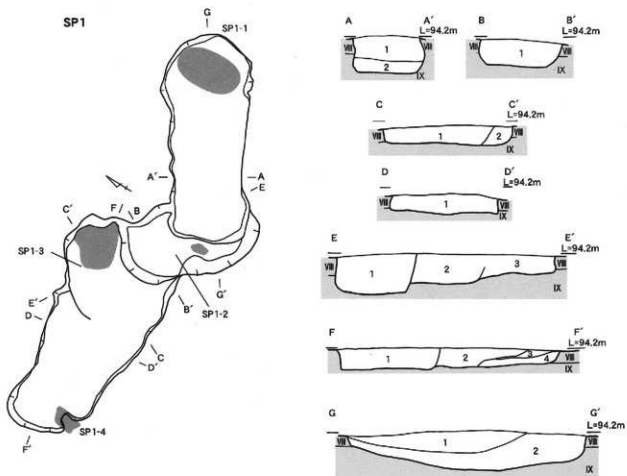
石鏃はIV・V層から出土し、全てで45点である。基部には、無基あるいは抉りの浅いものがある。また、大型のものには鋸歯線になるものがある。粘地型石鏃が1点含まれるが、鋸形鏃は無い。

5 遺構出土の遺物

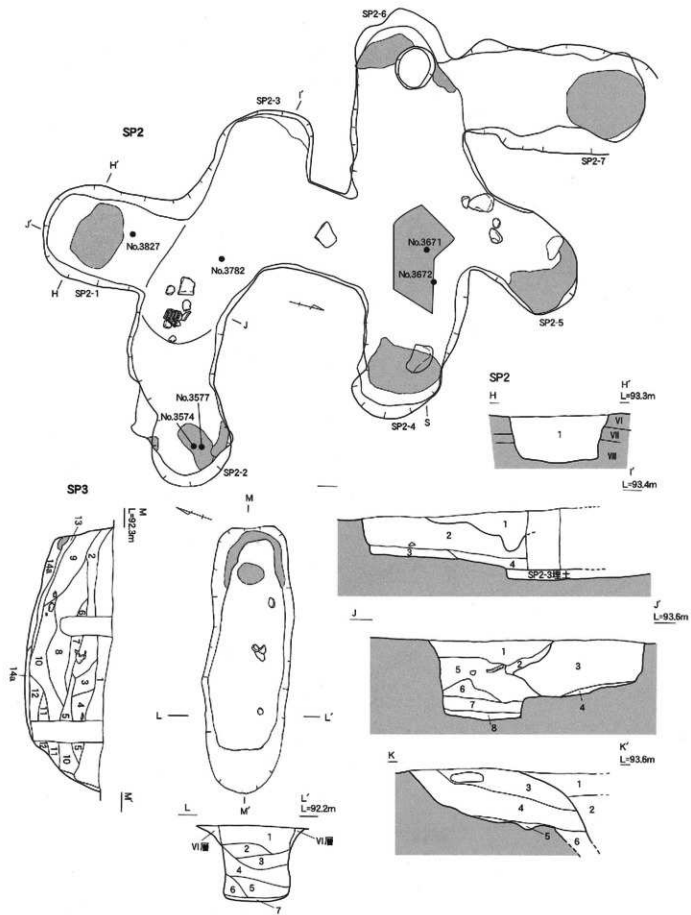
集石遺構に伴う遺物としては、石鏃・砥石・敲石・磨石・スクレイパー・石核等が出土した。

炉穴では、敲石・台石・礮器・石核等が出土している。

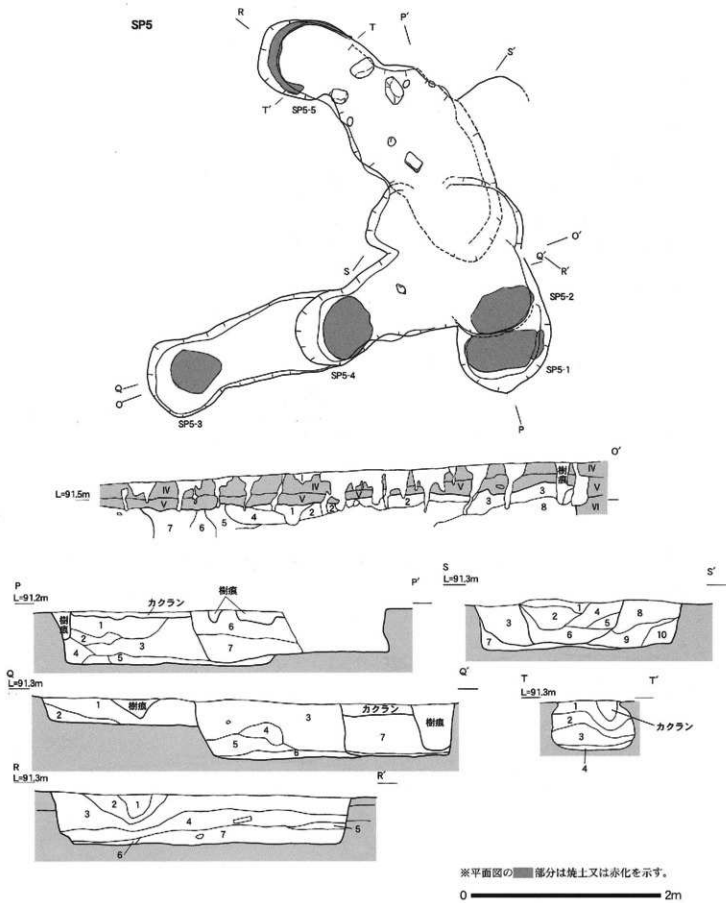
炉穴については、埋土中に台石・砥石が落ち込む傾向にある。また、完形近い深鉢が出土した。このほか、炭化物の残存状況が良く大きめの破片が多数確認された。



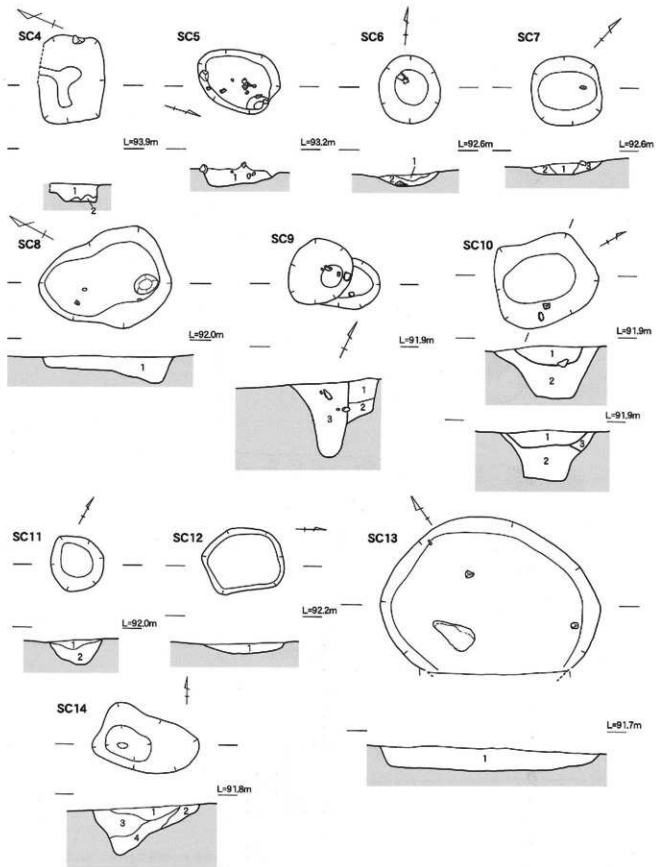
第19図 炉穴実測図(1)



第20图 炉穴実測图(2)



第21図 炉穴実測図 (3)



第22图 土坑实测图

集石道構土層注記

- S18 暗褐色土(0-hue10YR3/3) 粘性がややあり、しまっている。粘性有る暗褐色土を含む。炭化物・焼土を多く含む。
- S19 黒褐色土(0-hue10YR3/2) しまりや粘質がある。比較的多くの炭化物と微細な焼土を含む。
- S10-1 1. 黒褐色土(0-hue10YR3/2) 硬くしまる。炭化物・焼土を少量含む。
2. 暗褐色土(0-hue10YR3/3) しまりや粘性弱い。炭化物・硬小片を含む。
- S10-2 黒褐色土(0-hue7.5YR2/2) 粘性がやや見られ、硬くしまる。炭化物・焼土を含む。
- S11 黒褐色土(0-hue10YR2/2) 粘性はやや弱くしまり弱い。炭化物を微量含む。
- S12 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性はやや弱くしまりあり、1~2mmの焼土・炭化物を含む。
- S13 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 粘質土。5mmほどの焼土、少量の炭化物を含む。
- S14 暗褐色土(0-hue10YR2/3) 軟らかい粘質土や焼土・炭化物あり。
- S15 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粒子細くしまり、粘質あり。少量の炭化物を含む。
- S16 黒褐色土(0-hue10YR3/2) 粒子細くしまり粘質あり。炭化物1mm大の焼土を少量含む。
- S17 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 粘性やや弱く、しまり有り。
- S18 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 硬くしまる。焼土・炭化物あり。
- S19 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 弱くしまる。0.5~1.5cm程度の炭化物あり。
- S20 暗褐色土(0-hue10YR3/4) やや硬く、しまりがあり、粘性もある。小粒の炭化物を多めに含む。
- S21 暗褐色土(0-hue10YR3/4) ややしまり有り。炭化物・焼土を含む。
- S22 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 0.5cm大の炭化物と微細な焼土を含む。
- S23 暗褐色土(0-hue10YR3/3) 粘性やや弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物粒を含む。
- S24 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性は弱く、しまりあり。炭化物と褐色土が少量混ざる。
- S25 暗褐色土(0-hue10YR3/3) 粒子は細かく、しまり粘質あり。微量の炭化物・焼土を含む。
- S26 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性はやや弱く、しまり弱い。炭化物を含む。
- S27 黒褐色土(0-hue7.5YR2/2) 硬くしまる。炭化物・焼土を含む。
- S28 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) 粘質弱い。0.2~0.4mmの炭化物と1mm程度の小礫を含む。
- S29 1. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) しまりやや強く、粘性弱い。1~2mmの焼土・炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) しまりやや強く、粘性弱い。1mm以下の焼土・炭化物粒を微量含む。
3. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) 1~2mmの褐色土ブロックとhue7.5YR4/4が全体的に混ざり、斑状を呈する。
4. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) 1~5mmの炭化物や1~2mmの焼土をより多く含む。
5. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) 3層とほぼ同質の土。
6. 黒褐色土(0-hue7.5YR3/2) しまりやや弱く、粘性やや強い。3層に見える褐色土ブロックが混入するが他の層に比べるとやや少ない。尾鈴山酸性岩類の小破片や1mm以下の焼土・炭化物を微量含む。
- S30 暗褐色土(0-hue10YR3/3) しまり弱い。1mm~2mm程度の炭化物を含む。
- S31 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 粘質土。硬くしまる。炭化物を微量含む。
- S32 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 炭化物・焼土を含む。
- S33 黒褐色土(0-hue10YR2/2) やや粘性があり、しまっている。炭化物多く含む。
- S34 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 粘質弱く、しまり弱い。暗褐色土が少量混ざる。焼土・炭化物少量含む。
- S35 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性強く、しまり有り。炭化物を微量含む。
- S37 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性弱い。炭化物・焼土粒を僅少量含む。
- S38 暗褐色土(0-hue10YR3/4) 粘性あるがしまりなし。炭化物・焼土を微量含む。

炉穴土層注記

SP1

A-A'

- 1 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 硬くしまり1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2層に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
- 2 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にガラガラとし、しまる。

B-B'

- 1 黒褐色土(0-hue10YR3/2) 1mm大の白色、焼土、炭化物を密に含み、ガラガラと削れる。ATブロックと粘土ブロックを含む。

C-C'

- 1 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 1mm大の白色粒子や焼土、炭化物粒が密に入り、粘土塊も入りガラガラとし、しまっている。
- 2 1層に対して、含まれる粒子が非常に少なく柔らかい。焼きしまっている感はない。

D-D'

- 1 黒褐色土(0-hue2.5YR3/1) ATのかたまりを含む。

E-E'

- 1 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 硬くしまり1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2層に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
- 2 黒褐色土(0-hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にガラガラとし、しまる。

- 3 黒褐色土(Hue10YR3/2) ATのブロック、焼土、白色粒子、炭化物を密に含むためザラザラとし、しまりが強い。

F-F'

- 1 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) しまり弱く、柔らかい。焼土を含む量が少ない。
2 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) 1層よりはしまりが強く、多量の焼土を含む。
3 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) ATのかたまりを含む。
4 黒褐色土(Hue10YR3/2) ATのブロック、焼土、白色粒子、炭化物を密に含むため、ザラザラとし、しまりが強い。

G-G'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にザラザラとし、しめる。

SP2

H-H'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしめる。焼土粒、炭化物がまんべんなく混ざる。白色粒少量。中部にHue10YR5/にぶい黄褐色土のブロック混ざる。

I-I'

- 1 攪乱
2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱くやや軟らかい。焼土粒子、炭化物ごく少量含む。にぶい黄褐色土がマーブル状に少量混ざる。
3 ATが焼けて赤化している。SP3では床面をこの層の上面を最終使用面としている。中央にサブレを入れてさらに赤化面がないか確認したが、9層は焼けていなかった。
4 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性弱く軟らかい。焼土粒を多量に含む。炭化物もやや多い。

J-J'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱い。褐色土が斑点状に混ざる。ATブロック、焼土粒、炭化物が少量みられる。
2 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしめる。にぶい黄褐色土ブロックが含まれる。焼土粒は1層に比べ多い。
3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしめる。白色粒子を少量含む。焼土粒・炭化物は少量含まれる。
4 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性あり軟らかい。焼土粒を多量に含む。床直上。
5 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしめる。1~5cmの焼土ブロックが少量含まれる。炭化物も大きいものが含まれる。白色粒子。焼土粒多量に含まれる。
7 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱くやや軟らかい。白色粒は3層より減少。焼土粒は少量含まれるが焼土ブロックは見られなくなる。炭化物は少量含まれる。SP2の埋土。
8 地山

K-K'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) しまりが弱く、崩ると非常にサラサラと崩れる。中に焼土の柔らかい土を含む。
2 黒褐色土(Hue10YR2/3) しまりが弱く崩ると非常にサラサラと崩れる。中に焼土ブロックを含む。炭化物を多量に含む。下部には焼土粒子を多量に含む。
3 黒褐色土(Hue10YR2/3) しまり有るが、サラサラと崩れる。暗褐色土ブロック含む。1mmの白、オレンジ粒子を多く含む。
4 黒褐色土(Hue10YR2/2) しまりが有り焼土を多量に含む。又、炭化物が最も多く含まれる。
5 黒褐色土(Hue10YR2/2) しまりが強く、焼土粒子を多量に含む。炭化物が多量に含まれる。
6 褐色土(Hue10YR4/4) 焼土ブロック、ブラックバンドブロック、AT、褐色土。粘質土ブロックを多く含む。

SP3

L-L'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱くしまりあり1cm大の焼土のブロックが入る。白色粒子、焼土粒子はまばらである。
2 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや弱く硬くしめる。褐色土ブロックが入る(3~5mm)
3 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱くしまりあり。にぶい黄褐色土がマーブル状に混ざる焼土粒・白色粒少ない。
4 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや硬くしめる。均質。1~2mmの焼土粒。5mm大の炭化物を少量含む。
5 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性ややあり。しまりあり。均質。焼土粒とやや大きめの炭化物含む。
6 黒褐色土(Hue10YR3/2) 値切性弱く硬くしめる。焼土・炭化物を少量含む。

M-M'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬くしめる。白色粒・炭化物粒が均一に混ざる。
2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く硬くしめる。1層より白色粒が少量、1.5cm大の焼土粒と炭化物粒が混ざる。
3 暗褐色土(Hue10YR3/4) 1層と類似の大きめの焼土粒を含む。
4 黒褐色土(Hue10YR3/2) 硬くしめる。白色粒、焼土粒、炭化物粒に加え、2~6cm大の褐色土ブロックが混ざる。
5 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性・しまり弱。焼土・白色・炭化物粒を少量含む。4~10cm大の礫と青灰色粒を含む。

- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く軟らかい。焼土粒をわずかに含む。
- 7 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性やや強く硬くしめる。1.5cm大の焼土と3cm大の褐色土ブロックが入る。
- 8 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや弱く硬くしめる。白色粒・焼土粒をまばらに含むが、褐色土の大きなブロックがまばらにみられる。中央にかたまる20cm台の大きな礫がみられる。
- 9 黒褐色土(Hue7.5YR2/2) 粘性やや弱く硬くしめる。8層にみられた褐色土ブロックがわずかに含まれる。炭化物・焼土多数含む。
- 10 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや強く硬くしめる。均質。1~2mmの焼土粒。5mm大の炭化物を少量含む。
- 11 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性ややあり。しまりあり。均質。焼土粒とやや大きめの炭化物を含む。
- 12 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬くしめる。焼土・炭化物を少量含む。
- 13 暗赤褐色土(Hue5YR3/2) 粘性弱く硬くしめる。焼土直上で赤化している。埋土には炭化物・焼土を多量に含む。西面に行くほど赤化が強い。
- 14a にぶい赤褐色土(Hue5YR4/4) 粘性やや弱く軟らかい。10層が赤化したもの。炭化物含む。
- 14b 褐色土(Hue7.5YR4/4) 粘性やや強く軟らかい。10層直上。炭化物を多量に含む。1~2cmの褐色土ブロックを含む。

SP4

N-N'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く、硬くしめる。白色粒・炭化粒を中量含むが、焼土粒はほとんどない。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、硬くしめる。褐色土ブロック混ざる。下層にいくほど焼土・炭化物多くなる。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしめる。褐色土10YR4/4が混ざる。
- 4 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、柔らかい。褐色土10YR4/4ブロックとATブロックが混ざる。焼土・炭化物を含む。

SP5

O-O'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱くしまりあり。1cm大の焼土のブロックが入る。白色粒子、焼土粒子はまばら。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱く、ややしまりなし。褐色土が少量混ざる。白色粒子均一だが焼土粒は少なめ。自然堆積層との境界のためやや明るい。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く、硬くしめる。褐色土ブロックが入る(3~5mm)
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。にぶい黄褐色土がマーブル状に混ざる焼土粒・白色粒少ない。
- 5 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、ややしまりが悪い焼土粒ほとんど含まない。白色粒の粒子はある
- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 5層と類似しているが、褐色土。ブロック(2cm大)が含まれる。白色粒子はごく少量、炭化物少量含む。別の遺構の埋土か？
- 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、硬くしめる。焼土粒はほとんど含まず、白色粒子も微量。別の遺構の埋土か？
- 8 暗褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしめる。焼土粒・白色粒子ともに少量含まれる。

P-P'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性やや弱く、硬くしめる。褐色土Hue10YR4/6が混ざる。炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 暗褐色土主体だが褐色土Hue10YR4/4のブロックが多量に含まれる。
- 3 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性が弱く、硬くしめる。焼土粒・炭化物ともに少量含まれる。褐色土Hue10YR4/4がごく少量マーブル状に混ざる。
- 4 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱く、しまりあり。3層と類似するが混じりのない層。
- 5 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を多量に含む床直上の層。
- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を多く含む。褐色土Hue10YR4/4を少量含む。
- 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を少量含む。中に、0.5~1cmの焼土粒も含まれる。褐色土Hue10YR4/4ブロックを少量含む。

Q-Q'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしめる。白色粒子・焼土粒ともに少量含む。10cm大の礫を1点含む。礫は埋まる段階で落ち込んだもの。
- 2 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性弱く、硬くしめる。褐色土が少量混ざる。0.2~0.5mm大のやや大きめの白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。下層に向かうほど焼土粒は多くなる。褐色土がごく少量混ざる。
- 4 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性弱く、軟らかい。ATのブロックが混ざる状況は壁の一部が崩落して混ざったものと考えられる。
- 5 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く、硬くしめる。焼土粒を多く含む。
- 6 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 粘性やや弱く、軟らかい。床面直上で焼土粒・炭化物を多く含む。使用時にたまった土の可能性がある。
- 7 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱くしまりあり。
- 黒褐色土(Hue10YR4/6) 2~3cm大の褐色土ブロックが少量含まれる。上層では暗褐色土が混ざる。

R-R'

- 1 褐色土(Hue10YR4/4) 粘性弱く、やや硬い。焼土粒・白色粒を含まない。6層の色調に類似(=ブリッジ)。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性がやや弱く、軟らかい。褐色土が混ざる。焼土粒・白色粒含む(壁がブリッジの土の可能性あり)
- 3 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬く、しめる白色粒。焼土粒を少量含む。褐色土・ATブロック混ざる。
- 黒褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く硬く、しめる。白色粒はまばらに見られるが焼土粒は少量で、ほぼ均一な土質。
- 4 黒褐色土(Hue10YR 3/3) 粘性弱く硬く、しめる。0.1mm大の焼土も混ざる。炭化物多く含まれる。褐色土ブロックが多量に混ざる。

- 5 ぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性弱く軟らかい、ATが混ざる。
 6 ぶい赤褐色土(Hue10YR4/4) 床面直上は軟らかい、焼土粒子を多量に含む。3cm大の焼土ブロックもみられる。
 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性しまりあり、2~5cm褐色土ブロックがごくわずかに混ざる。炭化物少量含む。

S-S'

- 1 SP5を切る土坑か。
 2 SP5を切る土坑か。
 3 SP5を切る土坑か。
 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしまる。焼土・白色粒ほとんど無し。炭化物多く含む。褐色土ブロック大量に混入。
 5 黒褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く硬くしまる。焼土粒、白色粒ごくわずかに含む。
 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性しまりあり、2~5cm褐色土ブロックがごくわずかに混ざる。炭化物少量含む。
 7~10 地山

T-T

- 1 褐色土(Hue10YR4/4) 粘性弱くやや硬い。焼土粒・白色粒を含まない。
 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱くやや硬い。褐色土Hue10YR4/4のブロックを多量に含む。
 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしまる。白色粒、焼土粒を少量含む褐色土・ATブロック混ざる。
 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしまる。1mm大の焼土も混ざる。

土坑土層注記 (縄文時代早期)

- SC4 1. 黒褐色土(Hue10YR3/1) やや粘性あり、硬くしまる。
 2. 暗褐色土(Hue10YR3/4) やや粘性あり、硬くしまる。
 SC5 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱いがしまりあり。
 SC6 1. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粒子は細かく、しまりなし。
 2. 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粒子細かく、MLJのブロック含む。
 SC7 1. 黒色土(Hue10YR2/1) 粒子細かく、硬くしまり粘質有り。アカホヤ粒子・炭化物を含む。
 2. 黒色土(Hue10YR2/1)・黄褐色土Hue10YR 6/6混合土。明黄褐色土の粒子は粗い。
 SC8 1. 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く、しまりあり。褐色土がごく少量ほど混ざる。
 SC9 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性・しまりあり。
 2. 黒褐色土Hue10YR2/3 粘性があり、軟らかい。
 SC10 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性強くしまりあり。褐色土Hue10YR4/4が少量混ざる。
 2. ぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性がやや弱く軟らかい。焼土ブロック(φ1.5cm大)が混ざる。褐色土が1層より多く混ざる。
 3. 褐色土(Hue10YR4/6) 粘性やや弱く軟らかい2層と同じ土坑の埋土。
 SC11 1. 黒色土(Hue10YR2/1) 粒子細かく硬くしまる。粘質あり、アカホヤ粒子や炭化物含む。
 2. 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粒子細かく硬くしまる。粘質あり、少量のアカホヤ粒子や炭化物含む。
 SC12 1. 黒褐色土(Hue10YR3/2) 硬くしまるが、粘性弱い。炭化物を少量含む。
 SC14 1. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粒子細かく硬くしまる。粘性は弱い。微量の焼土粒、炭化物を含む。
 2. 黒褐色土(Hue10YR2/2)・ぶい黄褐色土10YR 4/3が混じる。全体的にしまりはなく粘質も弱い。
 3. ぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粒子はやや粗く、しまりもない。粘質あり。
 4. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 1と同質だが0.5~1cm大の2の粒子が混ざる。また焼土を含まない。

第3表 集石遺構観察表(1)

集石番号	階段	出土位置		規模(m)			配石		備考	分類
		グッド	抜出	長	幅	高さ	有無	個数		
S8	B	I16d	V層上縁	1.30	0.95	0.20	有	7	断面はS30の隣接する、掘り込みが約20cmの層を貼り付けたように記されている。これらの配された層には、層を壊すように掘削内面に崩壊した層が見られる。崩壊層は尾崎山麓性泥岩が大半を占め、よく赤化する。断面面から中央の層は礫石(図面)であり、正面が平らになるように掘えおくようなられた。	I'
S9	A	D6b	V層上縁	0.88	0.50	0.10	有	4	アカホヤ火山灰層前平部より単独で検出された。また、両側部分は崩壊によって欠けている。中央の礫や検出層の厚がそろっており、前平より赤化層が認められる。崩壊層は尾崎山麓性泥岩が大半を占め、よく赤化する。断面面から中央の層は礫石(図面)であり、正面が平らになるように掘えおくようなられた。	I'
S10-1	B	G14d	V層上部	1.10	0.94	0.14	有	10	B区アカホヤ火山灰層前平部より単独、密着するよう掘り出された。中央縁と裏面方に礫が埋め込まれ、比較的大型の礫で構成され、掘り込み面に密着するように配された。中には支柱状のよう小形の礫が大型礫の下に不安定な状態で埋め込まれた。層は、中央より若干下まで入る。埋土に炭化物・焼土がみられた。	I'
S10-2	B	G14d	V層上部	0.85	0.70	0.15	無		上面が10cm程度の地点から検出された。上面はすでに、アカホヤ火山灰層上層まで削られている。掘り込み深くも赤土に埋め込まれ、上面にのみ赤化する。埋土からは炭化物・焼土がみられた。	II'
S11	A	D8c	V層上部	1.18	0.93	0.18	有	16	S12に隣接して検出された。掘り込み層には大型の礫が配され、赤土に密着し、密着する並びと考えられる。左半の外周縁が特に粗である。層は中央が小径であり土状の中心までみられる。赤化がみられた。	I'
S12	A	D8c	V層上部	1.05	0.78	0.15	無		同じグッド内に密着する3集石の内、中央に位置する集石遺構である。上面は前平より、両側縁は段状が見られる。層は掘り込み面に密着して並び、土状上部に集中する。	II'
S13	A	E8c	V層上部	0.90	0.88+	0.10	無		アカホヤ火山灰層前平部より検出された。上面は大きく削平され、一部埋土がみられた。掘り込み深く、床まで埋め込まれた。	II'
S14	A	E8a	V層上部	1.10	1.05	0.12	無		断面に厚い、上面は前平部の状況の中で検出された。礫の集中箇所は2つに区別されることから2つの集石遺構が切り合った状況かと考えられる。明確な赤化は若干箇所でみられる。	II
S15	A	E8a	V層上部	-	-	-	無		アカホヤ火山灰層、埋土の層より検出された。掘り込みは非常に浅く、若干まで埋め込まれる。埋土に炭化物を含む。赤化がみられた。	II'
S16	A	E8a	V層上部	1.08	0.84+	0.13	無		アカホヤ火山灰層前平部から検出された。1/4程度は赤化を受けている。中央の層より構成される。層は掘り込み深くあり、上部に集中がみられる。赤化がみられる。埋土中には炭化物を含む。	II'
S17	A	E8b	V層上部	0.9+	0.76	0.05	無		アカホヤ火山灰層前平部から出土した。また、一部埋土の影響が見られる。掘り込みは広く、浅い。層は中央にまばらに広がりが、掘り込みの床まで入る。赤化がみられる。	II'
S18	A	E8b	V層上部	1.18	1.11	0.16	無		覆土集石区に近くより検出された。上面はすでに削平されていたが、層は掘り込み内に残り残っていた。他の集石遺構より大きく、赤化した層が多かった。	II'
S19	A	E8b	V層上部	0.90	0.51+	0.23	無		B区南側のアカホヤ前平部より検出された。プランの1/2程度は赤化を受けている。検出された集石遺構の内、最も掘り込みが浅く、最もまばらであるが、埋土近くまで入る。このレベルでは埋土の層がみられる。赤化は、約5cm程度の厚さでみられる。	II'
S20	A	D9d	V層上部	1.28	0.58+	0.25	無		覆土集石区アカホヤ前平部下、単独に検出された。掘り込みは広く、中央に礫が密集する。埋土には、少量の炭化物を多量を含む。	II
S21	A	D8c	V層上部	1.07	1.04	0.19	無		断面に埋土の集石遺構が広がる。アカホヤ火山灰層前平部より検出された。層は粗くあり、掘り込みの上部に広がりが、埋土中に炭化物・焼土がみられた。	II'
S22	A	E8d	V層上部	1.07	0.85	0.19	無		比較的、S42に近い層で検出された。上面はすでに削平されており、上部に1/4程度のみであった。埋土に炭化物・焼土を含む。	II'
S23	B	I17d	V層上部	1.00	0.75	0.13	無		S27-28に隣接してアカホヤ火山灰層前平部下で検出された。断面については、崩壊層の影響と前平部によって礫の残りが悪い。掘り込みは広く、浅い。最も上部だけに密着する。埋土中より焼土・炭化物が確認された。	II'
S24	A	C5b	V層上部	0.75	0.70	0.15	無		アカホヤ前平部下より単独で検出された。層は不整形のものが多く、粗である。掘り込み内に炭化物が特別に密集する箇所が見られた。	II
S25	A	C6d	V層上部	0.92	0.88	0.10	無		アカホヤ前平部下より単独で検出された。掘り込みの壁に大型の礫を配する。中央は礫が粗である。埋土に炭化物・焼土を含む。	II'
S26	A	D8c	V層上部	1.24	1.13	0.10	無		アカホヤ火山灰層前平部下で検出された。断面には多くの集石遺構が埋め込まれ、一部、長方形がみられる。掘り込みは広く、浅い。層は粗くあり、床まで入る。埋土に炭化物を含む。	II'
S27	B	G11b G12a	V層上部	1.10	0.93	0.15	無		S28-29に隣接するアカホヤ火山灰層前平部下で検出された。掘り込みは広く、小形の礫が厚く床まで密着する。埋土中には、炭化物・焼土がみられた。	II'
S28	B	F11d	V層上部	1.01	0.90	0.19	無		3集石集中する集石遺構の北側に位置する。アカホヤ火山灰層下で検出する。掘り込みは広く、浅い。層は、部分的に密集度が異なり、掘り込み上部に片寄る。	II'
S29	B	G12a	V層上部	-	-	-	無		B区北側に3基まで掘り出した集石遺構の南側に位置するものでアカホヤ前平部下に良好な状態をともてた。検出時点は2基の集石が切り合っているかと思われる。しかし、半壊後の埋土層が斜めに見られ、埋土遺構同様に並ぶことから崩壊した状況(床)を来すものと判断した。	II'
S30	B	I16d	V層上部	1.10	0.90	0.10	無		S8に隣接する。掘り込みは浅く、中心に礫が集中し、両側縁は粗である。やはり尾崎山麓性泥岩の崩壊層によって構成され、赤化がみられた。	II'
S31	A	C5a	V層上部	0.58+	0.44+	0.10	無		覆土集石区北平、アカホヤ火山灰層前平部より検出された。プランの両半を埋れ込んで欠けている。層は少数である。	II'
S32	A	E8d	V層上部	0.70	0.54	0.11	無		西側にはS22がみられる。上面がすでに削平されていたが以下の点から集石遺構と判断した。層は非常に粗く、プランが円形を呈すること、他集石と同様の埋土かつ炭化物・焼土を含むことが確認された。	II'
S33	A	C5c	V層上部	0.48	0.44	0.80	無		大幅な前平より残存層が非常に少ない。掘り込み床面から5cm程度埋った所に集石を大型の礫が1点検出されたが配石の可能性は少ないと判断した。	II'
S34	A	D7c	V層上部	0.79	0.72	0.16	無		アカホヤ火山灰層前平部から単独で検出された。掘り込みの壁に層に密着するように礫が比較的厚く配されていた。半壊は多少赤化層であり、埋土から炭化物が確認された。	II'
S35	A	E7d E8c	V層上部	0.64	0.55	0.90	無		アカホヤ火山灰層前平部から単独で検出された。掘り込みもであり床面が平らになる。掘り込み前後は赤化する。最も上部の近くまで埋め込まれる。	II'
S36	B	H13d	IV層中部	-	-	-	無		他の集石遺構より上の検出位置で確認した。掘り込みはないが、層が密集する形で認定した。	III'

第4表 集石遺構観察表 (2)

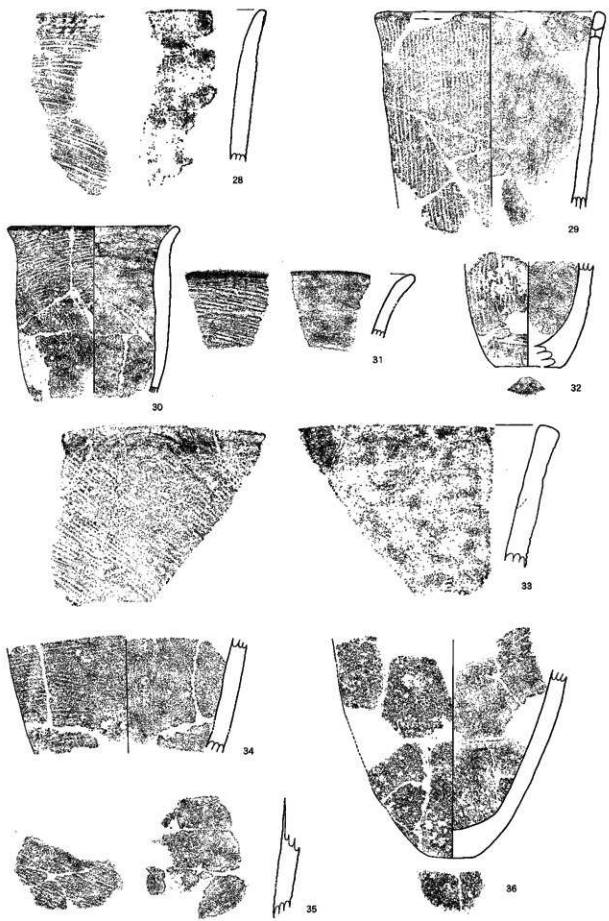
集石番号	調査区	出土位置		規模(m)			配石		備考	分類
		グリッド	検出	長軸	短軸	深さ	有無	備数		
S87	A	D6c	V層上部	1.03	0.75	-	無		アカホヤ火山灰層残存下に単独で検出された。掘り込みはない。周囲には、層がまばらに広がるのみで同様な集石地はみられない。掘削内には炭化物・焼土を含む。炭化がみられない。	II
S88	A	B4a	IV層上部	0.83	0.82	0.15	無		調査区北のアカホヤ火山灰層下で検出した。比較的小型の掘り込み中央に大型の環1つ、掘り込み端に比較的大型の環中央近くに関かなを配する。南端は短である。焼土に炭化物・焼土を含む。	IV

第5表 炉穴観察表

炉穴番号	調査区	出土位置		規模(m)			ブリッジ	備考
		グリッド	検出区・東層	長軸	短軸	深さ		
SP1-1	A	B2b	IV層中部・IV層上部プラン確定	2.20+	0.93+	0.43+	無	SP1の中で最も新しい。一節復元がみられる。床面は非常に硬い灰層であり、東端が掘削により炭化している(伊部)。プランは、伊部副遺構が最も良い。
SP1-2	A	B2b	IV層中部・IV層上部プラン確定	1.50	0.80	0.31+	無	SP1-1に切られる。伊部として明確な箇所は残存していないが、中央部に炭化部分が若干残っている。
SP1-3	A	B2b	IV層中部・IV層上部プラン確定	1.26	0.65+	0.23+	無	SP1-2に切られる。焼土は非常に硬く、床面は灰層上位であり、西端に炭化している(伊部)。
SP1-4	A	B2b・A2d	IV層中部・IV層上部プラン確定	1.30+	1.10+	0.20+	無	SP1-3に切られる。焼土は非常に硬い。床面は灰層上位であり、西端側面に復元炭化がみられる。
SP2-1	A	E7a・E7b	V層検出・VI層プラン確定	1.80+	1.02+	0.50	無	SP2-2に切られる。焼土は硬く、焼土・炭化物を含む。プラン東側面に炭化がみられる(伊部)。
SP2-2	A	D7c	V層検出・VI層プラン確定	1.50+	0.65+	0.74+	有	SP2-3に切られる。北端部や側面に炭化がみられる。中央より北に、ブリッジと思われる箇所が確認できる。
SP2-3	A	D7c・D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.74+	1.01+	1.83+	無	焼土の状況からSP2-1より新しい。掘り込みは灰層まで、南端は復元が炭化し、さらに復元が炭化したものが厚く堆積する。北端は1層分近い大型土柱が重なって築土した。
SP2-4	A	D7c	V層検出・VI層プラン確定	1.10+	1.50+	0.57+	有	灰層まで掘り込み、北端が明確に炭化している(伊部)。また、炭化部分中央は上端が内側に入ることから、ブリッジの可能性が高い。焼土上部層から約100gが出土した。
SP2-5	A	D7c・D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.10+	0.80+	0.55+	無	灰層までの掘り込み、西端は炭化する。西端は復元のため不明。切り合い部分は焼が堆積した。
SP2-6	A	D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.50+	1.15+	-	無	灰層まで掘り込み、南端は炭化する。中央は散乱により崩平。炭化面はSP2-7切り合い部分までみられる。
SP2-7	A	D7d	V層検出・VI層プラン確定	2.20+	1.10+	0.45+	無	灰層まで掘り込み、西端は炭化する。西端先は側面により不揃。直径0.5m範囲に炭化がみられる。
SP3	B	I15c	V層下部検出・VI層プラン確定	2.65	0.91	0.57+	無	単独で検出された。掘り込み・炭化面はIX-X層である。焼土ブロック・炭化面の検出から東端部が伊部と考えられる。
SP4-1	B	I14b	V層下部検出・VI層プラン確定	1.95+	0.85+	0.65+	無	IX層まで掘り込み、北端の床面に炭化部分が確認された(伊部)。検出区上部は炭層土表がみられた。
SP4-2	B	I14b・I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.20+	1.00+	0.35+	無	SP4の中で最も古い炉穴で灰層まで掘り込んでいる。上部は炭層土表がみられた。プランの北側壁に炭化がみられる(伊部の可能性有り)。
SP4-3	B	I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.95+	0.95+	0.52+	無	SP5中で最初に作られた炉穴で灰層まで掘り込んでいる。上位は復元が重なっている。プランの南側・東側壁に炭化部分がみられる(伊部の可能性有り)。
SP4-4	B	I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.20+	0.91+	0.55+	無	SP4-3が復元により復元を受けた後、掘り込まれたと考えられる。床面はSP4-3の焼土。上部は焼木炭。東端側面に炭化部分が確認された(伊部の可能性有り)。
SP5-1	B	I15c	VI層検出・VI層プラン確定	0.60+	1.00+	0.55+	無	SP5-2に切られる。北端と壁に炭化がみられる。
SP5-2	B	I15c	VI層検出・VI層プラン確定	0.80+	0.82+	0.55+	無	床面はSP5-1と同じ面となる。また、北端が炭化する。
SP5-3	B	I14d・G14b・I15c	VI層検出・VI層プラン確定	1.85+	0.81+	0.29+	無	VI層上部より掘り込み、東端に炭化がみられる。SP5-4に基礎が切られている。
SP5-4	B	I14d・I15c	VI層検出・VI層プラン確定	1.90+	0.89+	0.83+	無	VI層上部より掘り込み、東端に炭化がみられる。SP5-2又はSP5-5に切られる。
SP5-5	B	I15c・G15a	VI層検出・VI層プラン確定	3.00+	1.14+	0.90+	有	VI層上部からIX層まで掘り込み、南端に炭化がみられ、ブリッジも残存する。

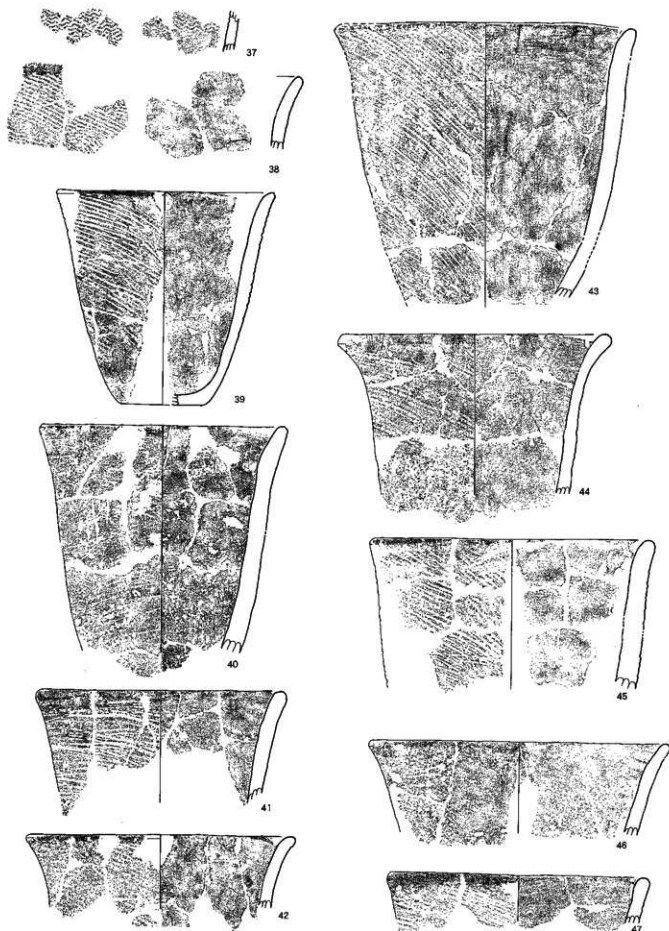
第6表 土坑観察表

土坑番号	調査区	出土位置		規模(m)			遺物	備考
		グリッド	検出区	長軸	短軸	深さ		
SC4	A	D7a	V層	0.69	0.51	0.12	無	不定形なプランを呈す。中央に復元有り。
SC5	B	D8a・D8c	V層	0.63	0.45	0.16	無	楕円形に近い。焼土中に小形の環を含む。
SC8	B	G11a	IV層	0.52	0.48	0.15	有	円形を呈する。土層2点。
SC7	B	G11a	IV層	0.52	0.52	0.09	有	方形に近い円形のプランを呈する。土層1点。
SC8	B	F11c	V層	0.39	0.63	0.21	有	不定形なプランを呈す。土層1点。
SC9	B	F11d	V層	0.48・0.24	0.52・0.39	0.80・0.33	有	2基の土坑が切り合う。土層1点。割片1点。
SC10	B	G11b	V層	0.81	0.66	0.82	有	方形に近い円形のプランを呈する。土層3点。
SC11	B	H13a	IV層	0.45	0.52	0.21	無	円形に近い。
SC12	B	H13b	IV層	0.60	0.51	0.09	無	不定形を呈する。
SC13	B	I14a	V層	1.74	1.26+	0.15	有	土坑内で最もプランが大きく、浅い。
SC14	B	I14a	V層	0.78	0.45	0.36	無	平面は不定形で、断面は一部深い。



第23図 縄文時代早期土器実測図 (1)

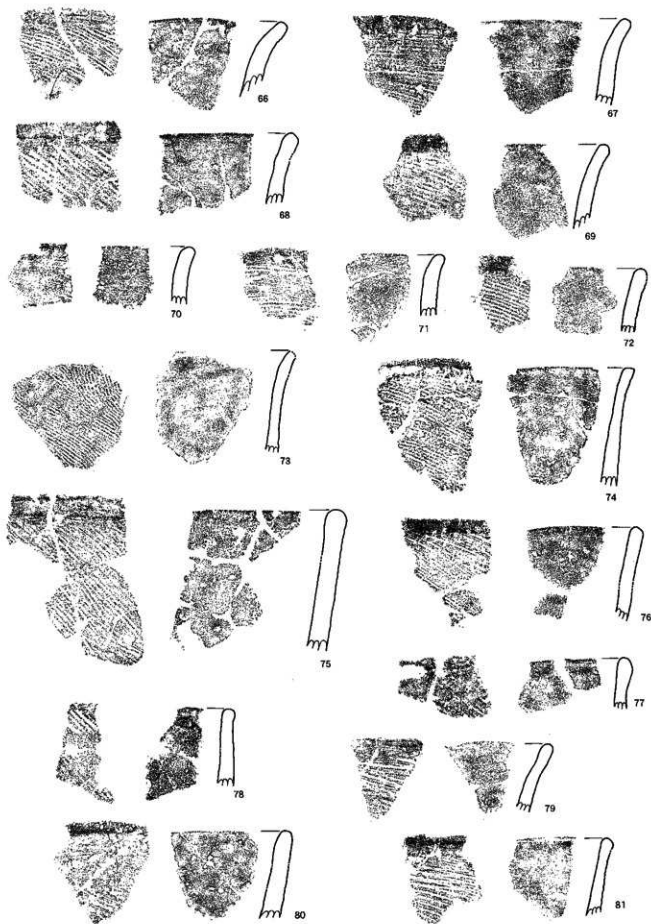
0 ————— 10cm



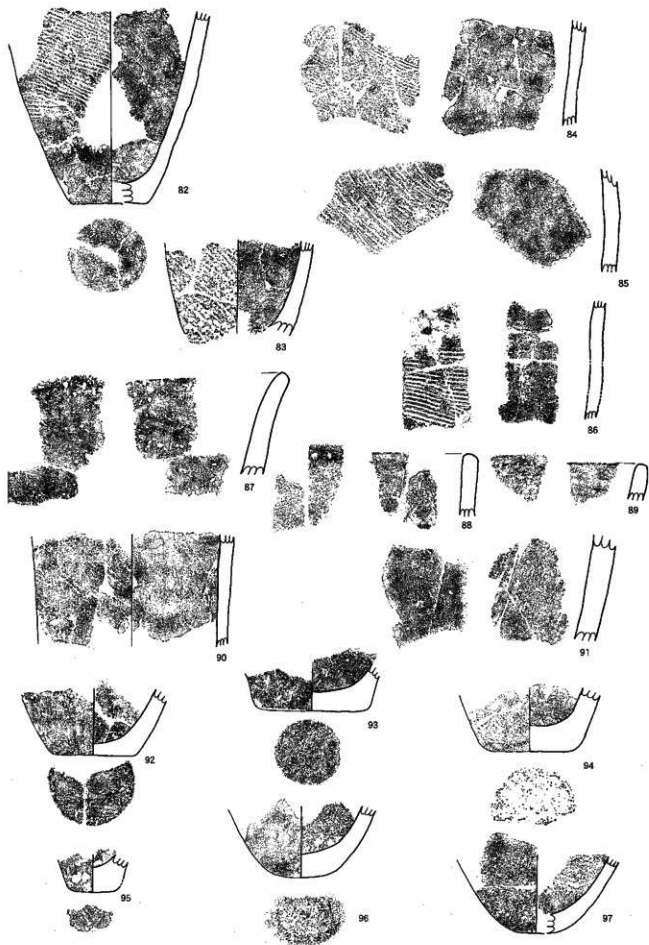
第24図 縄文時代早期土器実測図(2) 0 ————— 10cm



第25圖 繩文時代早期土器実測圖 (3)

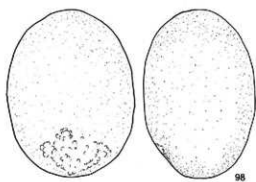


第26図 縄文時代早期土器実測図(4) 0 10cm

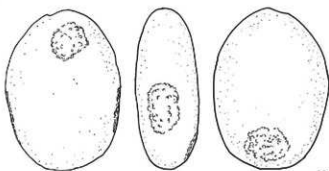


第27図 縄文時代早期土器実測図 (5)

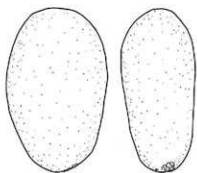
0 10cm



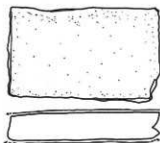
98



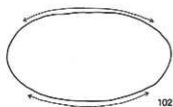
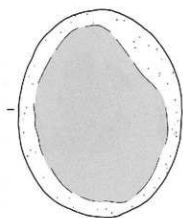
99



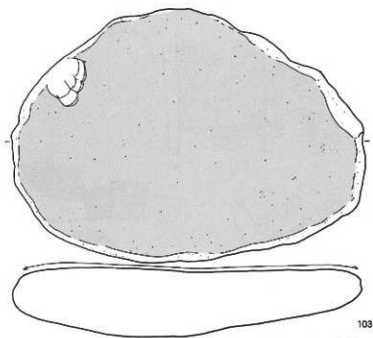
100



101



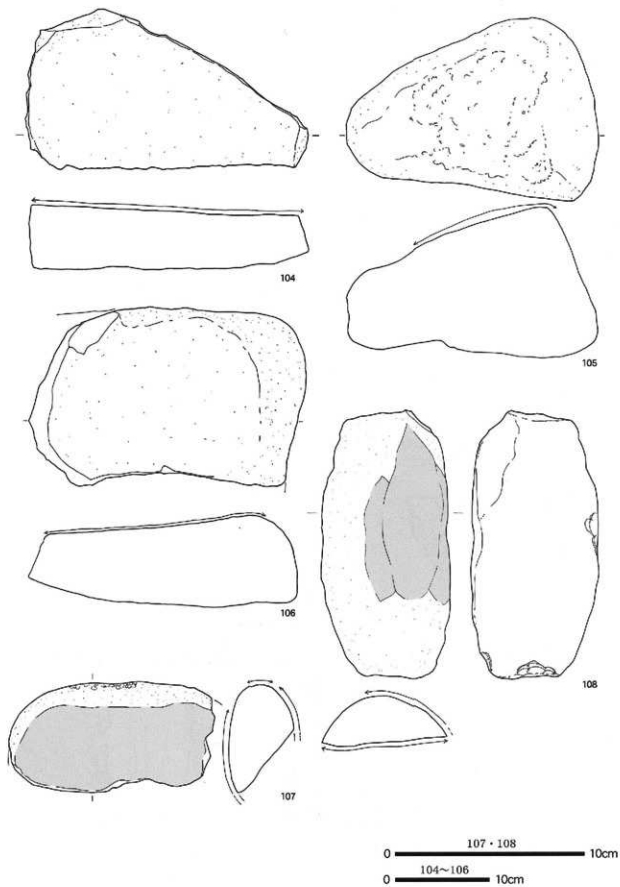
102



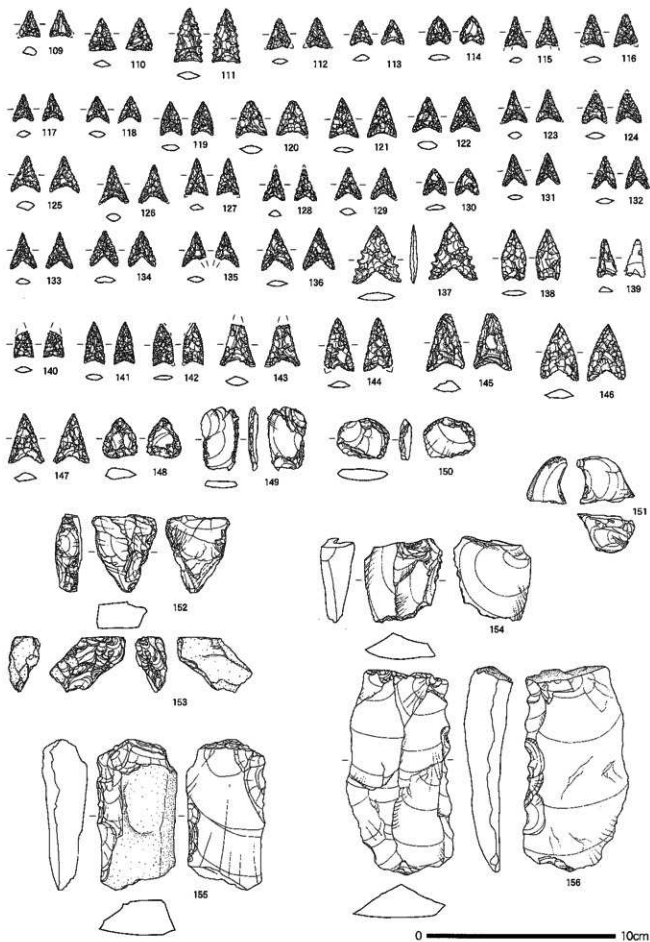
103

0 ————— 10cm
 98~100・102
 0 ————— 10cm
 101・103

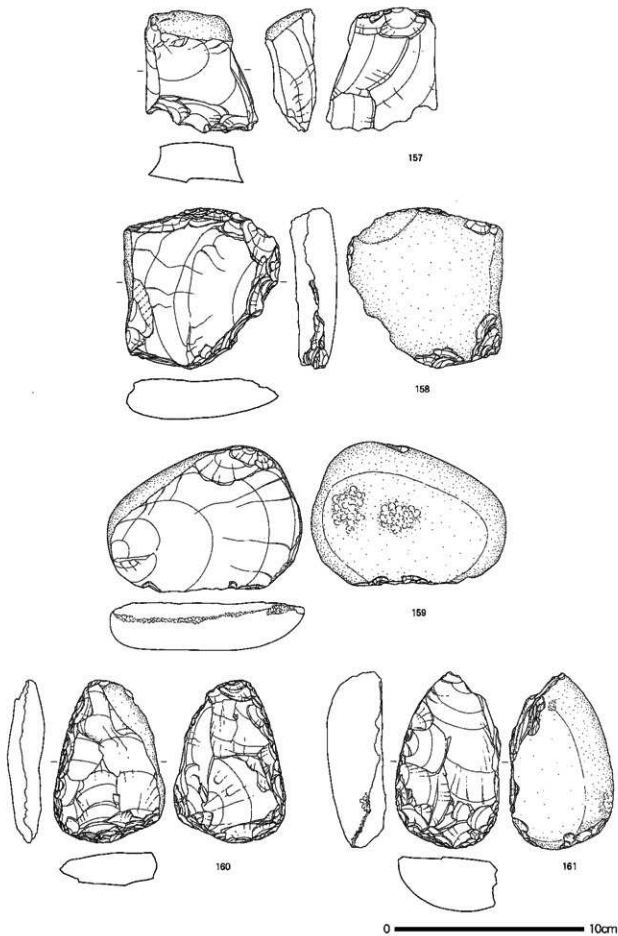
第28图 縄文時代早期石器実測図(1)



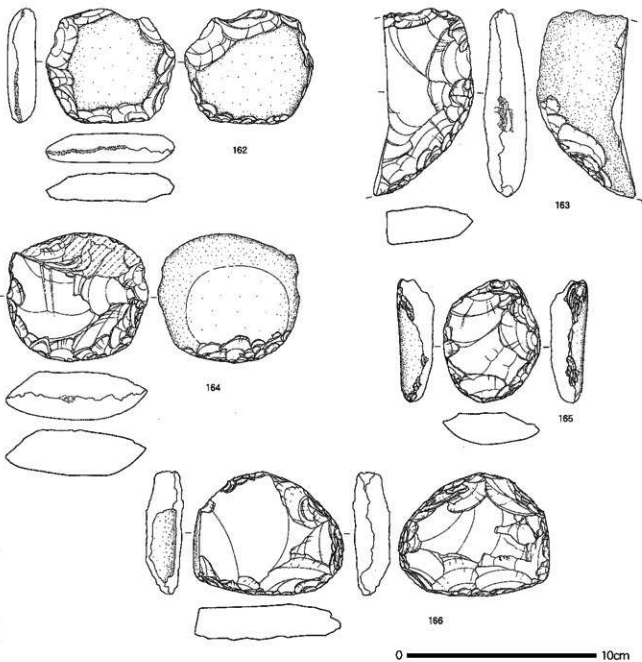
第29図 縄文時代早期石器実測図 (2)



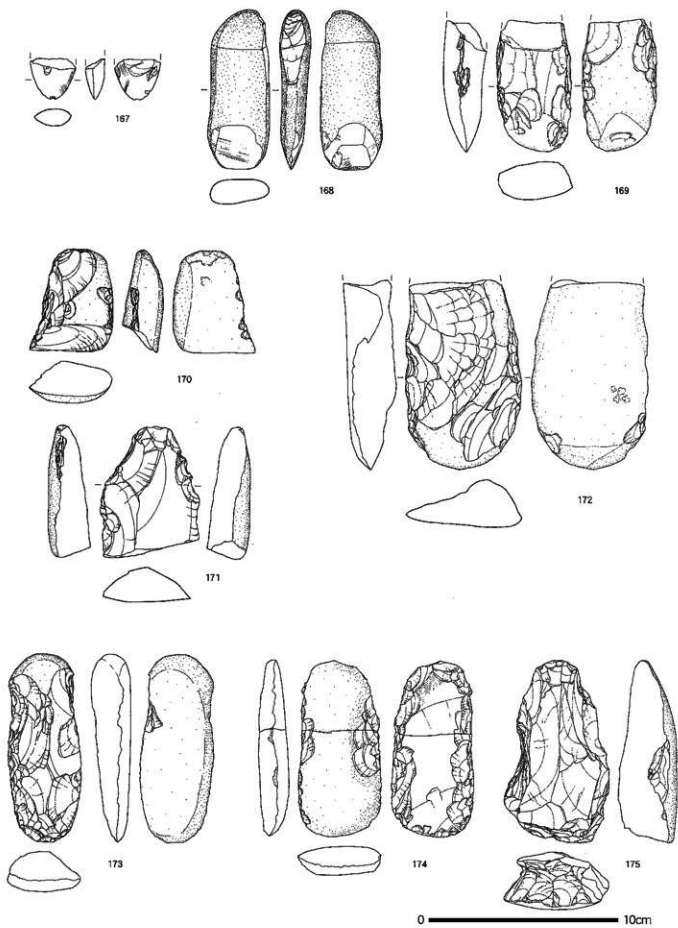
第30図 縄文時代早期石器実測図 (3)



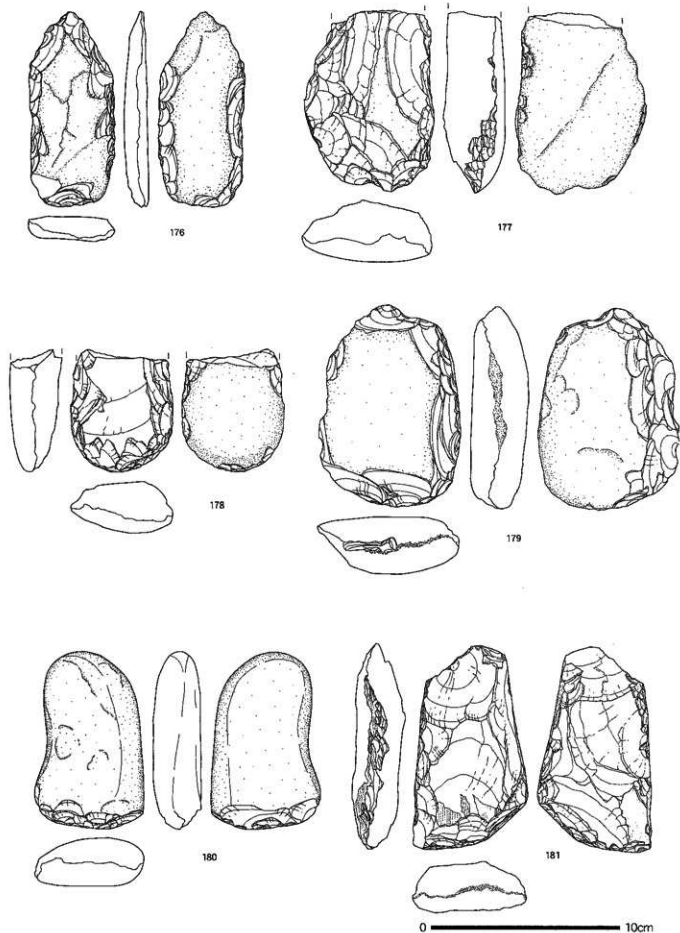
第31圖 縄文時代早期石器実測図 (4)



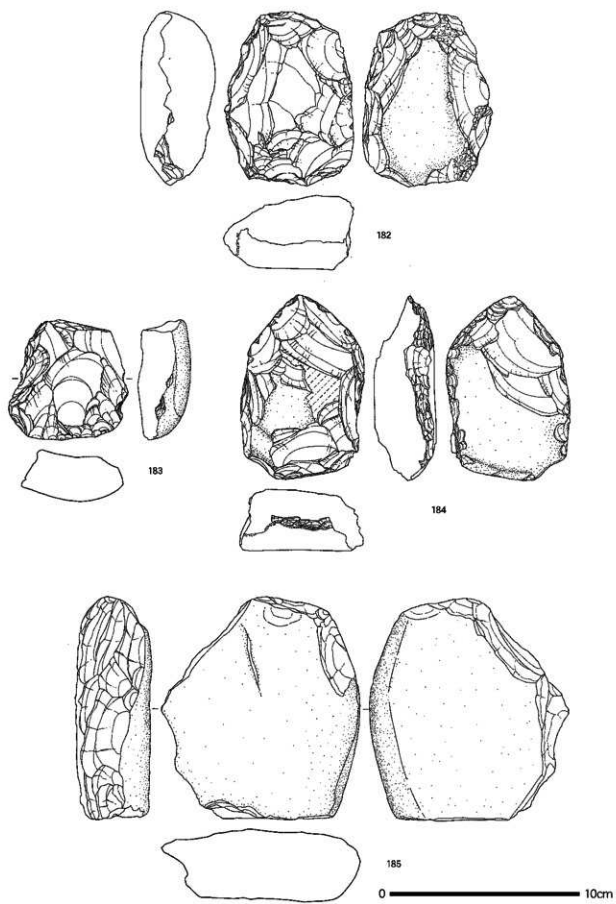
第32圖 縄文時代早期石器実測図 (5)



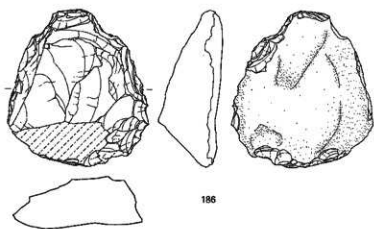
第33図 縄文時代早期石器実測図 (6)



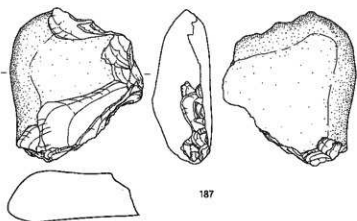
第34圖 縄文時代早期石器実測図 (7)



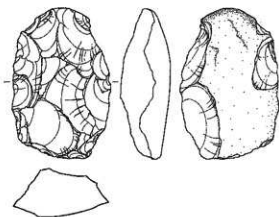
第35図 縄文時代早期石器実測図 (8)



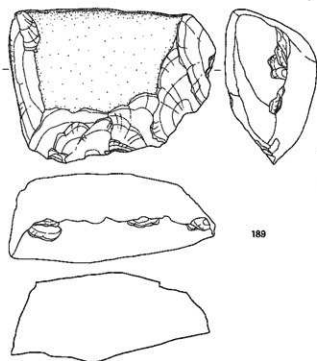
186



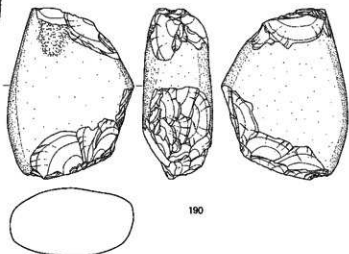
187



188



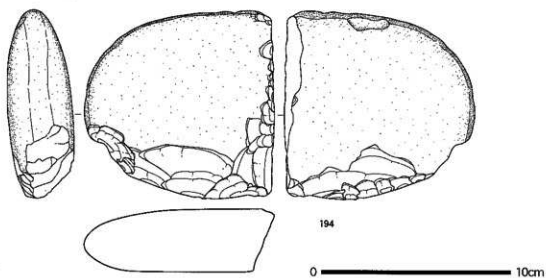
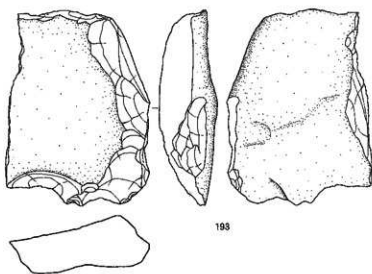
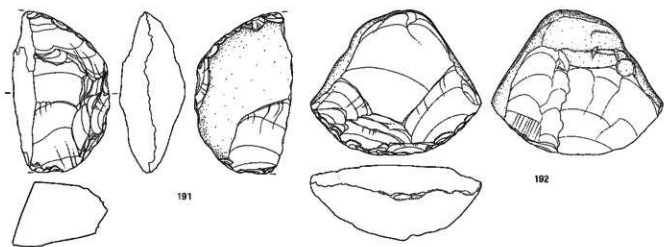
189



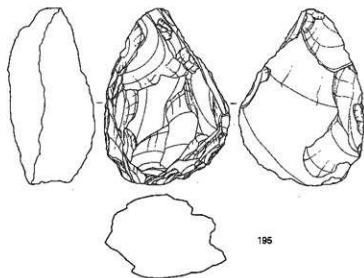
190

0 ————— 10cm

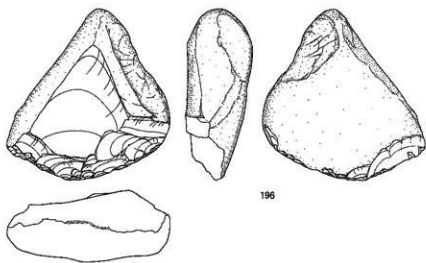
第36図 縄文時代早期石器実測図 (9)



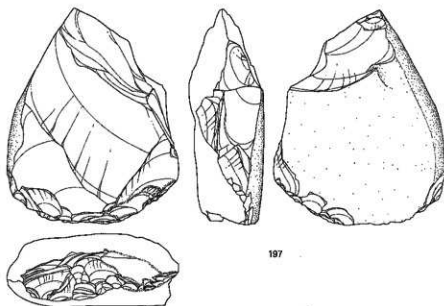
第37図 縄文時代早期石器実測図 (10)



195



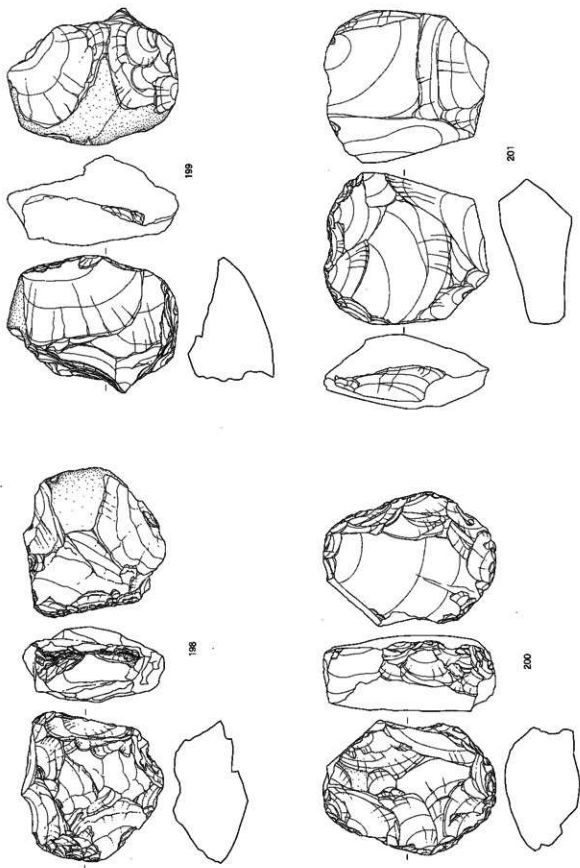
196



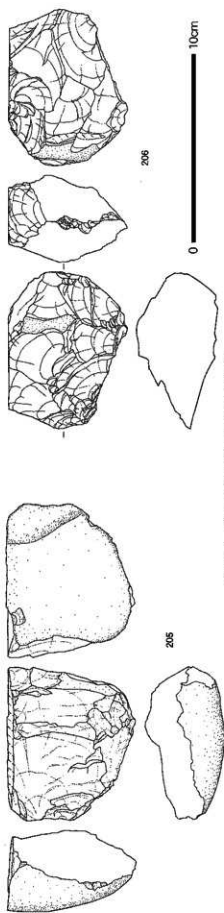
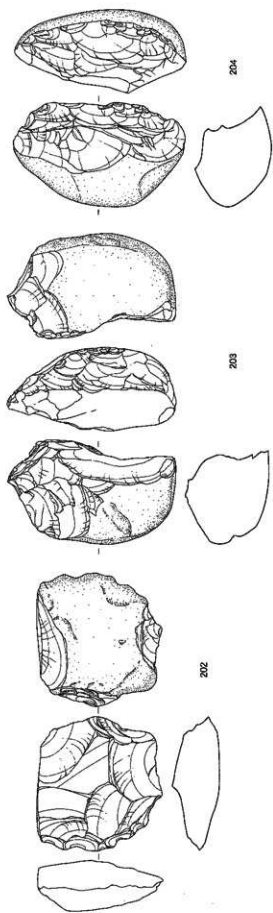
197

0 ————— 10cm

第38図 縄文時代早期石器実測図 (11)

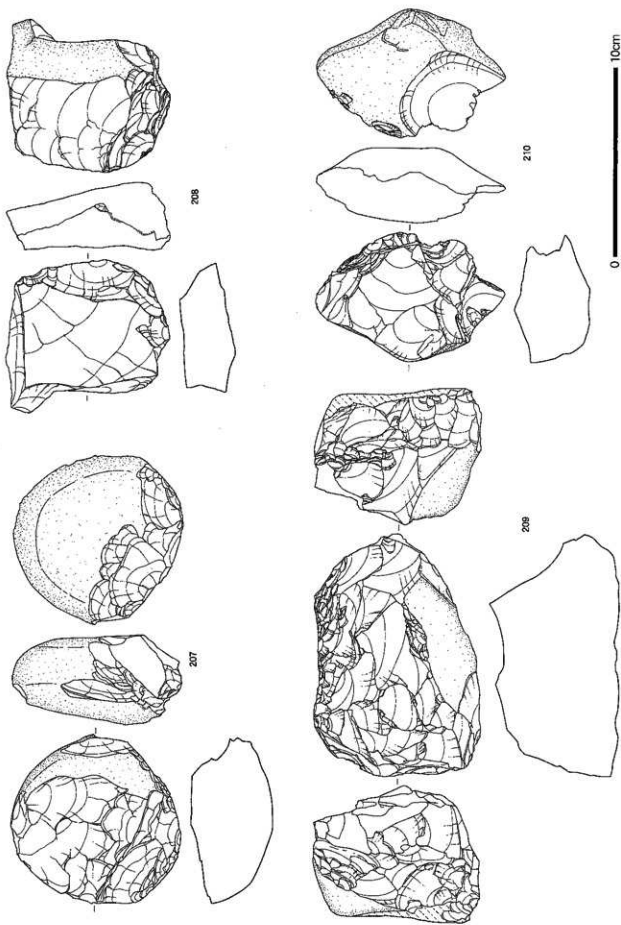


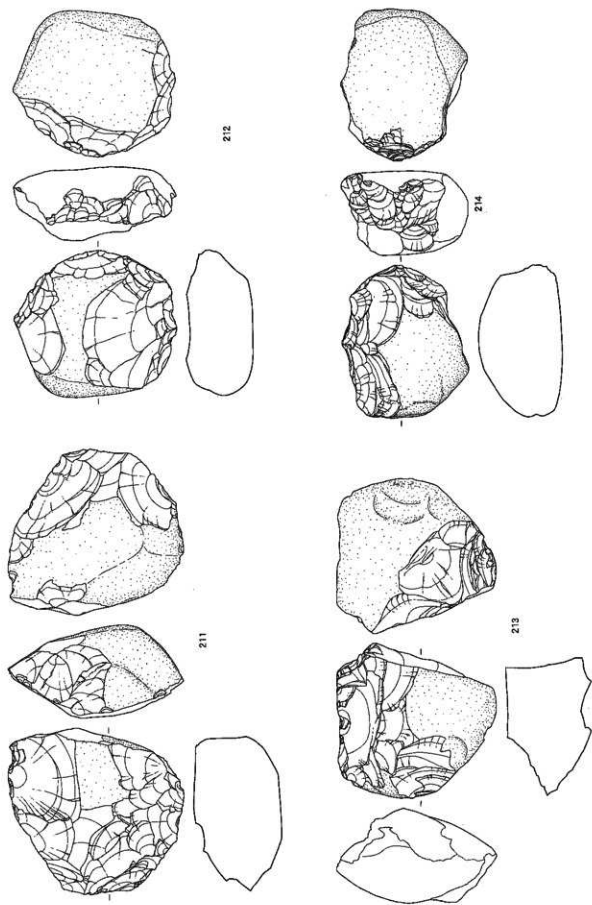
第39圖 縄文時代早期石器表測図(12)



第40図 縄文時代早期石器実測図 (13)

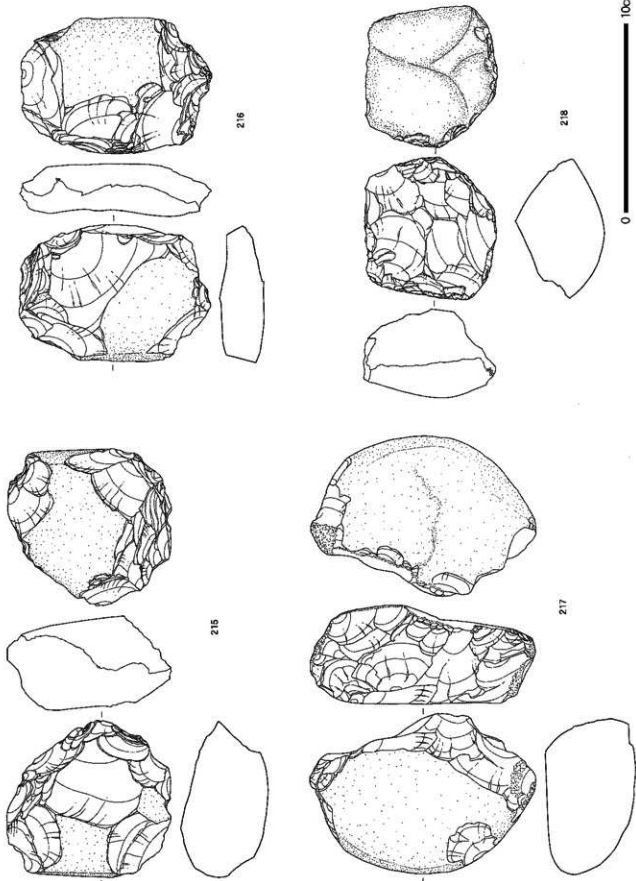
第41區 繩文時代早期石器灰湖區 (14)



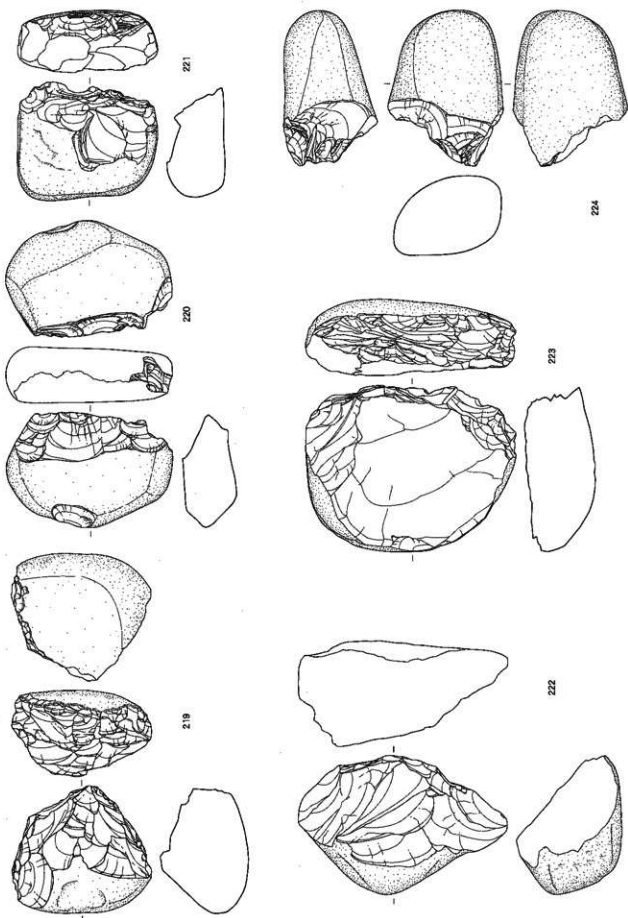


0 ————— 10cm

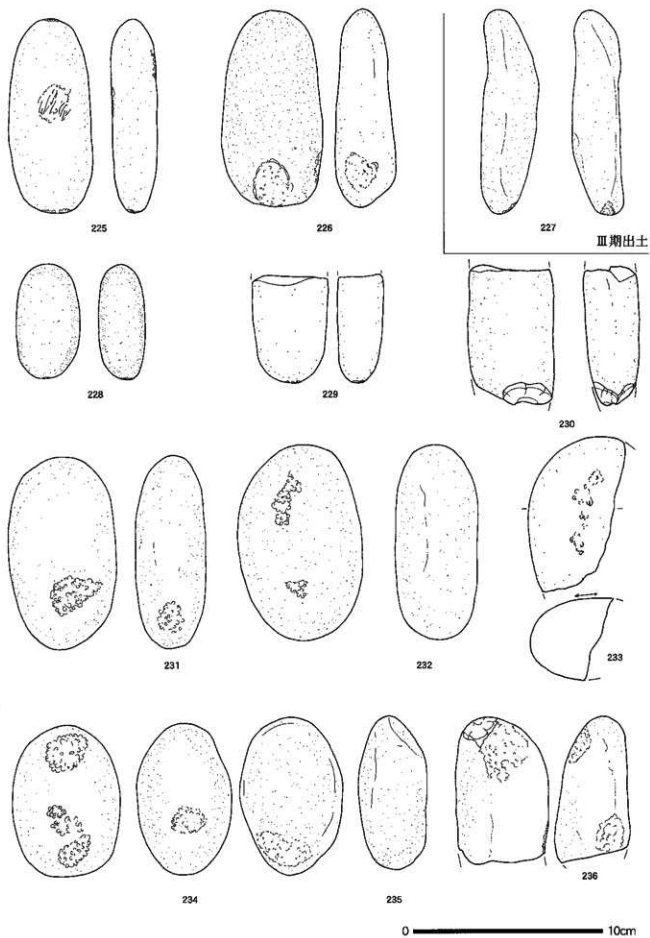
第42圖 縄文時代早期石器実測図 (15)



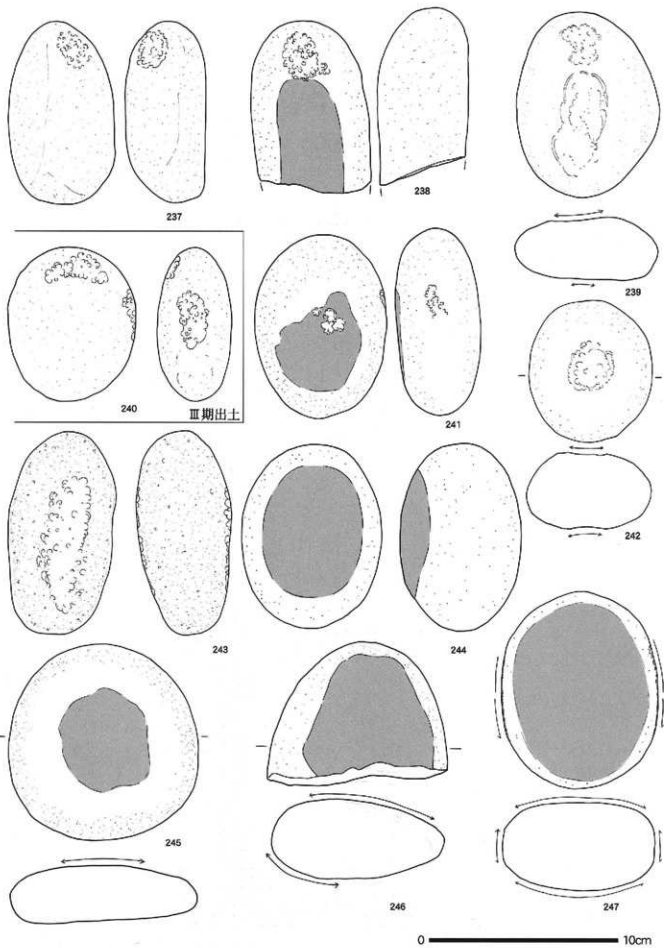
第43図 縄文時代早期石器実測図(16)



第44圖 縄文時代早期石器実測図 (17)



第45圖 縄文時代早期石器実測図 (18)



第46圖 縄文時代早期石器実測図 (19)

第7表 縄文時代早期土器観察表(1)

番号	出土場所	文様	観察	色 澤		結上の特徴	分類	
				外面	内面			
28	SP6	透刷刺文、具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、内面は口唇部付近に縦方向のヘラミガキ、下位は縦方向のヘラミガキ、口唇部付近に具股条文による1段の刺文あり	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	1mm以下の褐色・灰白色の鉱物粒を含む	II1
29	SP3	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近に縦方向、その下位は縦方向のヘラミガキ(穿孔有り)	透黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/3、透黄 2.5Y7/4	1.5mm以下の灰白色・1mm以下の褐色・茶褐色、白色、半透明の鉱物粒を含む	II2
30	SP6	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4、灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/4、灰黄褐色 10YR6/2	2mm以下の白色透明、灰褐色、3mm以下の黒色光沢、2mm以下の白色、茶褐色、金雲母等の鉱物粒を含む	II2
31	SP1	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、内面は縦方向のヘラミガキ、指環痕	灰黄褐色 10YR5/2	透黄 2.5Y7/3	2mm以下の半透明な乳白色・1mm以下の黒色の鉱物粒を含む	II2
32	SP2	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、底唇部付近は縦方向のヘラミガキ、内面は摩耗のため不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄 2.5Y7/2	2mm以下の光沢のある褐色・茶褐色、灰色、褐色、1mm以下の半透明、乳白色の鉱物粒を含む	II2
33	SP2	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のミガキ	明黄褐色 10YR7/6 にぶい黄褐色 10YR6/4	橙 7.5YR6/6 にぶい黄褐色 10YR6/4	5mm以下の軽石、2mm以下の灰白色の鉱物粒を含む	II2
34	SP6	具股条文	具股条文	外壁は縦方向の見股条文、内面はミガキ又は丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	1.5mm以下の光沢のある褐色、半透明、0.5mm以下の灰白色、褐色の鉱物粒を含む	II2
35	SP6	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、内面は斜方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	透黄 2.5Y7/3	2mm以下の半透明、透黄、黒色の鉱物粒を含む	II2
36	SP6	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の丁寧なナデかミガキ、底唇部付近は縦方向のミガキ、底唇外縁にはミガキ、内面は斜方向のヘラミガキ	明赤褐色 2.5YR5/8 橙 7.5YR7/6	明赤褐色 5YR5/6 にぶい黄褐色 10YR5/3	5mm以下の軽石粒、茶褐色の土状粒、1mm以下の灰白色粒、白色の鉱物粒を含む	II2
37	SP5	山形押型文	山形押型文	外壁は山形押型文、内面は縦方向の山形押型文、下位は工具による縦方向のナデ	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/4	2mm以下の白色薄片、1.5mm以下の白色、白色半透明あるいは光沢のある黒色の鉱物粒を含む	I
38	C7d	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、内面は縦方向又は斜方向のミガキ、口唇部は鎌倉気化(ミガキか)	透黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	2mm以下の灰白色、灰褐色・1mm以下の半透明、透光沢のある鉱物粒を含む	II1
39	D7c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、その下位は縦方向のミガキ、底唇部ミガキ、口唇部は縦方向のヘラミガキ、縦方向のヘラミガキ	橙 5YR6/6 にぶい黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	2mm以下の茶褐色、白色・1mm以下の黒色光沢、灰色の鉱物粒と2mm以下の茶褐色の土質状粒と軽石を含む	II2
40	D8c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、口唇部付近は縦方向のミガキ、下位は縦方向のミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR6/3	橙 7.5YR6/6 にぶい黄褐色 10YR6/3	1mm以下の灰白色、褐色、透明、透光沢の鉱物粒を多く含む	II2
41	D8c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4 灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	2mm以下の半透明・1mm以下の光沢のある褐色・茶褐色、半透明等の鉱物粒を含む	II2
42	J12c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のミガキ	にぶい黄褐色 2.5Y6/3	明黄褐色 2.5Y5/2	1.5mm以下の灰白色、褐色、透明、透光沢の鉱物粒を多く含む	II2
43	F10d	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近はヘラミガキ、下位は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/3 明黄褐色 10YR7/4	5mm以下の軽石粒、茶褐色の土状粒、1mm以下の白色、赤褐色、黒色の鉱物粒を含む	II2
44	J13d	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のミガキ	黄褐色 10YR1/5 透黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	4mm以下の茶褐色、半透明、2mm以下の褐色、白色、透明等の鉱物粒を含む	II2
45	C7c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近は縦方向のヘラミガキ、下位は縦方向のミガキ	灰黄褐色 10YR6/2	橙 7.5YR6/6 灰黄褐色 10YR6/2	5mm以下の灰褐色・1mm以下の黒色光沢、白色透明、2mm以下の金色の雲母薄片、1mm以下の黒色光沢、白色透明の鉱物粒を含む	II2
46	SP4	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向の丁寧なナデ	明赤褐色 5YR5/4 明赤褐色 5YR5/6	橙 5YR6/5 にぶい黄褐色 10YR6/4	4mm以下の軽石、2mm以下の茶褐色土質状粒、1mm以下の白色粒を含む	II2
47	I15a	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラミガキ	灰白 2.5Y8/2	透黄褐色 10YR8/4	1mm以下の褐色、灰白色、茶褐色の鉱物粒を含む	II2
48	D7c	具股条文	具股条文	外壁は横又は斜方向の見股条文、口唇部はヘラミガキ、内面は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 2.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	3mm以下の褐色・1mm以下の褐色、半透明等の鉱物粒と2mm以下の軽石粒を含む	II2
49	C7c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近は縦方向の丁寧なナデ、底唇部付近は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 7.5R6/3	3.5mmの黒色粒・1mm以下の黄褐色、白色粒を含む	II2
50	SP4	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラミガキ	橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	2mm以下の黒色・1mm以下の灰白色、赤褐色、半透明の鉱物粒と1.5mm以下の軽石粒を含む	II2
51	I15a	具股条文	具股条文	外壁は縦方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面はミガキ又は丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mm以下の褐色、灰白色、半透明光沢のある鉱物粒を含む	II2
52	D7c	具股条文	具股条文	外壁は斜方向の見股条文、口唇部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のミガキ、穿孔有り、指環痕有り	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1.5mm以下の半透明・1mm以下の褐色・茶褐色、灰白色の鉱物粒を含む	II2

第8表 縄文時代早期土器観察表(2)

番号	出土場所	文様	取巻	色 調		胎土の特徴	分類
				外面	内面		
53	J13d	貝殻条線文	外面はやや斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	2mm以下の赤褐色。1mm以下の黒色。半透明。灰白色等の鉱物粒を含む	II2
54	C7c	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文後部分的にナデ。内面はミガキ	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	1mm以下の褐色。灰白色。半透明の鉱物粒を含む	II2
55	SP4	貝殻条線文	外面は横方向の貝殻条線文。内面は丁寧なナデか(原料のため判断不可)	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	2mm以下の軽石粒と茶褐色。1mm以下の灰白色。半透明の鉱物粒を含む	II2
56	IF5a	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキ	透黄褐色 2.5YR7/3	灰黄褐色 2.5YR7/2	1mm以下の褐色。茶褐色。灰白色の鉱物粒を含む	II2
57	F11c	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は口唇部付近が横方向のヘラミガキ。その下位は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3 灰黄褐色 10YR6/2	1mm以下の赤褐色。光沢ある黒色の鉱物粒と2mm以下の褐色土質粒と軽石粒を多量に含む	II2
58	J10b	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面はミガキあるいは丁寧なナデ	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/2 灰黄褐色 10YR6/2	2mm以下の半透明。1.5mm以下の褐色の鉱物粒を含む	II2
59	F11c	貝殻条線文。連続刻突文。	外面は縦列一列の押引状貝殻条線刻突。下位は一列の貝殻条線刻突。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 2.5YR6/4 にぶい黄褐色 2.5YR6/4	2mm以下の半透明。光沢。半透明。光沢。1mm以下の灰白色。褐色の鉱物粒を含む	II1
60	IF4a	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のヘラミガキ。下位はヘラミガキか丁寧なナデ	透黄褐色 10YR6/4	透黄褐色 10YR6/4	1mm以下の灰白色。半透明。透明。光沢。白色。光沢。粒を含む	II2
61	SP5	貝殻条線文。連続刻突文	外面はナデ。口唇部はミガキ。内面はミガキ。口唇部に貝殻条線刻突による縦1段の連続刻突文	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	3mm以下のにぶい黄褐色2点。1mm以下の軽石粒を含む	II1
62	SP2	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。内面ミガキ	透黄褐色 2.5Y7/3	透黄褐色 2.5Y7/4	2mm以下の褐色。赤褐色。少量に黒色光沢の鉱物粒を含む	II2
63	B137	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線刻突。口唇部は摩耗のため不明。内面は横方向のミガキか(状況あり)	僅5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	2mm以下の軽石粒。茶褐色の薄片。1mm以下の白色鉱物粒を含む	II2
64	F10d	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部はミガキ。内面はミガキもしくは丁寧なナデ	透黄褐色 10YR6/4	透黄褐色 10YR6/4	1.5mm以下の褐色。白色の鉱物粒を僅かに含む	II2
65	F10a	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は丁寧なミガキか。横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4 灰黄褐色 10YR6/2	明赤褐色 5YR5/6	2mm以下の灰白色。1mm以下の黒褐色粒を含む	II2
66	BS-47	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のヘラミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	透黄褐色 2.5Y7/3	2mm以下の褐色。灰白色。1.5mm以下の透明。灰白色の鉱物粒を含む	II2
67	D7c	貝殻条線文	外面は横方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキ。又は丁寧なナデ	透黄褐色 2.5Y7/4	透黄褐色 2.5Y6/2	2mm以下の透明。光沢。1.5mm以下の灰白色。黒褐色。茶褐色の鉱物粒を多く含む	II2
68	D7d	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキ	灰黄褐色 10YR6/2	透黄褐色 2.5YR7/3	1mm以下の灰白色。茶褐色。半透明の鉱物粒を含む	II2
69	G13c	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は丁寧なナデか	にぶい黄褐色 10YR7/4	透黄褐色 10YR6/4	1.5mm以下の灰白色。褐色。黒色。1mm以下の透明。光沢。半透明の鉱物粒を含む	II2
70	F10d	無紋か	外面は斜方向の丁寧なナデ。口唇部はナデか。内面は横方向の丁寧なナデ	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	2mm以下の軽石粒。茶褐色の土質粒。1mm以下の灰白色の鉱物粒を含む	II2
71	J13d	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。内面は横方向のヘラミガキ	僅5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6 明黄褐色 10YR6/6	1.5mm以下の灰白色。乳白色あるいは光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II2
72	C7c	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面はミガキ	透黄褐色 2.5Y7/3	透黄褐色 2.5Y7/3 僅灰黄褐色 2.5YR6/2	1mm以下の褐色。灰白色。黒色。半透明。光沢の鉱物粒を含む	II2
73	D8b	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。所々に指痕有り。口唇部付近は横方向のヘラミガキ。その下位は横方向のヘラミガキ	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	4mm以下の赤褐色の薄片。3mm以下の赤褐色。黒褐色。灰白色。1mm以下の光沢ある透明。半透明の鉱物粒を含む	II2
74	J10b	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部付近は横方向のヘラミガキ。その下位は横及び斜め方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/4 僅7.5YR6/5	にぶい黄褐色 10YR6/4	2mm以下の赤褐色薄片。1mm以下の乳白色。灰白色の鉱物粒を含む	II2
75	D8b	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のミガキ。内面はミガキか丁寧なナデ	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	僅7.5YR7/6	3mm以下の軽石。褐色土質粒を含む	II2
76	IF4a	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10Y7/4 僅7.5YR7/6	1.5mm以下の褐色。灰白色。半透明の鉱物粒を含む	II2
77	C7d	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のミガキ。内面は横又は斜方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	1mm以下の褐色。乳白色の鉱物粒を含む	II2
78	SP2	貝殻条線文	外面は斜方向の貝殻条線文。口唇部は横方向のヘラミガキ。内面は横方向のミガキもしくは丁寧なナデ	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	僅7.5YR7/6	3mm以下の赤褐色薄片の1mm以下の灰白色。白色半透明の鉱物粒を含む	II2
79	B137	貝殻条線文	外面は横方向の貝殻条線文。内面は横方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	淡黄褐色 2.5YR5/3	1mm以下の褐色。光沢。白褐色。灰褐色の鉱物粒を含む	II2
80	F11c	貝殻条線文	外面は口唇部付近は横方向。下位は斜方向の貝殻条線文。内面は口唇部付近横方向。その下位は斜方向のヘラミガキ	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	2mm以下の軽石粒。茶褐色の土質粒。1mm以下の半透明。光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II2

第9表 縄文時代早期土器観察表(3)

番号	出土層序	文様	備 考	色 調		土質の特徴	分類
				外側	内側		
81	J10b	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、口唇部と内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/4或 7.5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	3mm以下の茶褐色、2mm以下の乳白色、 黒色の鉱物粒を多量に含む	II-2
82	D8b	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、その下位は縦方向のヘラミガキ、底外面はミガキ、内面は斜方向のミガキ	灰黄褐色2.5YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3、灰黄褐色 10YR5/2	2mm以下の茶褐色、灰色の鉱物粒と3mm 以下の茶褐色の土質状粒を含む	II-2
83	I14a	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、内面は縦方向のヘラミガキ、下位はナデ	にぶい黄褐色 2.5Y6/4、橙 5YR7/5	橙2.5YR7/6灰黄 褐色10YR5/7	1.5mm以下の灰白色、褐色の鉱物粒を含む	II-2
84	C7d	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、内面は縦方向のヘラミガキ	橙2.5YR6/8 橙2.5YR5/6	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	2mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、 光沢ある黒色乳白色の鉱物粒を含む	II-2
85	SP2	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙7.5YR7/6	2mm以下の半透明な乳白色、1mm以下の 白色の鉱物粒を含む	II-2
86	F11g	良紋 条線文	外面は斜方向の良紋条線文、内面は横方向のミガキか丁寧なナデ	赤黄褐色2.5YR7/3	にぶい橙 10YR7/4、2.5YR7/3	4mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、 黒色、透明の鉱物粒を含む	II-2
87	J10b	無文	外面は丁寧なナデ、下位は縦方向のミガキ、口唇部、 内面は斜方向のミガキもしくは丁寧なナデ(光沢あり)	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	2.5mm以下の褐色、1mm以下の灰白色、 雲母片等の鉱物粒を多く含む	II-2
88	D8b	無文	外面は斜方向のナデ、口唇部はヘラミガキ、内面は ミガキか丁寧なナデ(光沢あり)	灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/2	1mm以下の明黄色、灰白色、半透明等の 鉱物粒を含む	II-2
89	I14a	無文	外面は丁寧なナデ、口唇部は丁寧なナデか、内面は ミガキか丁寧なナデ(光沢あり)	橙7.5YR7/6にぶ い黄褐色10YR7/4	にぶい橙 7.5YR5/3、にぶい 黄褐色7.5YR6/4	3mm以下の乳白色、2mm以下の茶色の 鉱物粒を含む	II-2
90	C7d	無文	外面は縦方向のミガキ、内面は縦方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色10YR5/2	2mm以下の灰白色、1mm以下の黒色、 茶褐色、半透明の鉱物粒を含む	II-2
91	SP2	無文	外面はミガキ、内面はミガキ(黒化している)	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1.5mm以下の灰白色、褐色、1mm以下の 透明、光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II-2
92	B1-37	無文か	外面は縦方向のヘラミガキ、底外面はミガキ、内面 は丁寧なナデか	赤黄褐色2.5YR7/4	灰黄褐色2.5YR6/2或 2.5Y7/4	2mm以下の茶褐色の土質状粒、1mm以下の 半透明、黒色、白色の鉱物粒を含む	-
93	F10d	無文か	外面は縦方向のミガキ、底外面はミガキ、内面は丁寧 なナデか	にぶい黄褐色 10YR7/4、にぶ い黄褐色10YR6/3	灰黄褐色2.5Y6/2	4mm以下の茶褐色、灰白色、2mm以下の黒色 光沢粒、1.5mm以下の灰白色、黒色、1mm 以下の半透明光沢粒を含む	-
94	F10a	無文か	外面は丁寧なナデか、底外面はミガキ、内面は縦方向 のミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色2.5YR6/2	2mm以下の暗石粒、1.5mm以下の褐色、 灰白色粒を含む	-
95	B5-47	無文か	外面は横方向の丁寧なナデ、底面は丁寧なナデか? (摩滅のため不明)、内面はナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	2mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、 灰色、黒色の光沢ある鉱物粒を含む	-
96	D7c	無文か	外面は縦方向のミガキ、底外面は摩滅のため不明、 内面は摩滅のため不明	赤黄褐色2.5YR7/4	灰黄褐色2.5Y6/2	1mm以下の光沢ある黒色、半透明、透明、 茶褐色等の鉱物粒を含む	-
97	D7d	無文か	外面は丁寧なナデかミガキ、底外面はミガキ、内面は 縦方向のミガキ	赤黄褐色10YR6/4 10YR6/4にぶい黄褐色 10YR7/2	赤黄褐色10YR8/4 灰黄褐色10YR5/2	2mm以下の光沢ある黒色、半透明、透明、 茶褐色の鉱物粒を含む	-

第V章 自然科学分析

中ノ迫第3遺跡では、縄文時代早期の集石遺構32基と炉穴21基が検出され、そのほぼすべてから炭化物が出土した。検出層がともに縄文時代早期の包含層であること、出土土器が複数型式でないことからほぼ同時期に作られたと推測されるが、放射性炭素年代測定を実施することで確かなデータを得

ることができる。また、炉穴出土の炭化物の種実同定を行うことで当時の植生を解明することが期待できる。以上のような理由から自然科学分析を株式会社古環境研究所に業務委託し、遺跡を残した人々の生活の一端を明らかにすることに努めた。

第1節 中ノ迫第3遺跡における放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SP1	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.2	SP3	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.3	SP5	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.4	SP4	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.5	SI33	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.6	SI11	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.7	SI8	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.8	種実No.3574 (SP2)	炭化種実	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS: 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

(1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

(2) デルタ $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (%) で表す。

(3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を校正することにより算出した年代 (西暦)。calはcalibrationした年代値であることを示す。校正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1シグマ σ (68%確率) と2 σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 (西暦) (1 σ :68%確率, 2 σ :95%確率)
No.1	209389	9020 \pm 40	-26.7	8990 \pm 40	交点: cal BC 8240 1 σ : cal BC 8260~8220 2 σ : cal BC 8270~8190
No.2	209390	8980 \pm 40	-26.1	8960 \pm 40	交点: cal BC 8220 1 σ : cal BC 8240~8200 2 σ : cal BC 8260~8170, 8120~7990
No.3	209391	9720 \pm 40	-26.4	9700 \pm 40	交点: cal BC 9210 1 σ : cal BC 9230~9180 2 σ : cal BC 9240~9140, 8970~8940
No.4	209820	9090 \pm 40	-26.5	9070 \pm 40	交点: cal BC 8270 1 σ : cal BC 8280~8260 2 σ : cal BC 8300~8240
No.5	209392	8880 \pm 40	-25.5	8870 \pm 40	交点: cal BC 8160, 8130, 7980 1 σ : cal BC 8190~7960 2 σ : cal BC 8220~7910, 7900~7830
No.6	209393	9200 \pm 40	-28.6	9140 \pm 40	交点: cal BC 8260 1 σ : cal BC 8310~8280 2 σ : cal BC 8440~8270
No.7	209394	9030 \pm 40	-26.6	9000 \pm 40	交点: cal BC 8240 1 σ : cal BC 8260~8220 2 σ : cal BC 8270~8200
No.8	210493	8820 \pm 40	-24.7	8820 \pm 40	交点: cal BC 7950 1 σ : cal BC 8160~8130, 7980~7800 2 σ : cal BC 8200~7740

3. 所見

加速器質量分析 (AMS) 法による放射性炭素年代測定の結果、No.1の炭化物では8990 \pm 40年BP (1 σ の暦年代でBC8260~8220年)、No.2の炭化物では8960 \pm 40年BP (同BC8240~8200年)、No.3の炭化物では9700 \pm 40年BP (同BC9230~9180年)、No.4の炭化物では9070 \pm 40年BP (同BC8280~8260年)、No.5の炭化物では8870 \pm 40年BP (同BC8190~7960年)、No.6の炭化物では9140 \pm 40年BP (同BC8310~8280年)、No.7の炭化物では9000 \pm 40年BP (同BC8260~8220年)、No.8の炭化種実では8820 \pm 50年BP (同BC8160~8130, 7980~7800年)の年代値が得られた。

(文献)

Stuiver et al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

第2節 中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2. 試料

試料は、選別済みの6点の炭化物 (No.3574、No.3577、No.3671、No.3672、No.3782、No.3827) である。

3. 方法

肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4. 結果

分析の結果、樹木2分類群が同定された。表1に学名、和名および粒数を示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

- ・コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* 子葉 ブナ科

炭化していて黒色で、やや長細い楕円形を呈し、表面には縦方向に条線が入る。果皮と殻斗が欠落し、子葉のみである。20.3mm×8.2mm。

- ・コナラ属 *Quercus* 子葉(半形・破片) ブナ科

黒褐色で半楕円形を呈する。果皮と殻斗が欠落し、欠損があるため属レベルの同定にとどめた。18.8mm×10.5mm、17.4mm×9.6mm、16.4mm×9.5mm。

- ・種実の形態ではないものは不明炭化物とした。

5. 考察

種実同定の結果、No.3574はコナラ属コナラ節の子葉、No.3577、No.3671、No.3672はコナラ属の子葉と同定された。なお、No.3782は不明炭化物、No.3827はブナ科とみられる炭化材である。

コナラ属コナラ節は、日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、冷温帯落葉広葉樹林の構成要素であるミズナラやナラガシワ、および温帯に広く生育し二次林の性格を持つコナラなどがある。コナラ属コナラ節の種実(ドングリ)はアクが強く、食用とするためには水さらしや加熱処理などが必要である。

文献

南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.
渡辺誠 (1975) 縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p

第1表 中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定結果

分類群		部位	No.					
学名	和名		3574	3577	3671	3672	3782	3827
Arbor	樹木							
<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節	子葉	1					
<i>Quercus</i>	コナラ属	子葉(半形)			1	1		
		子葉(破片)		1				
Total	合計		1	1	1	1	0	0
	不明炭化物						1	

中ノ迫第3遺跡の種実

*材片



1 3574

コナラ属コナラ節子葉

5.0mm



2 3577

コナラ属子葉

5.0mm



3 3671

コナラ属子葉

5.0mm



4 3672

コナラ属子葉

5.0mm

第VI章 まとめ

本遺跡は、川南町の北西部から広がる尾鈴山系東麓より派生した舌状台地の突端部（標高90m前後）に位置している。周辺遺跡を見渡すと、調査区より北東には中ノ追第2遺跡が、その先には中ノ追第1遺跡、眼下の低地には前ノ田村上第1・第2遺跡等、旧石器時代から縄文時代早期・弥生時代後期の遺跡が密集しているとわかる。

後期旧石器時代初頭から前半の中ノ追第3遺跡

Xa層より局部磨製石斧が出土した（中ノ追第3遺跡-旧石器時代I期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第1段階に相当する。都農町朝倉遺跡でも、同層に相当する層から局部磨製石斧が出土している。県内での出土例は未だ少なく、稀少な資料として注目される。

なお、この時期の他遺跡においては、広範囲に散在する礫群、スクレイパーや二次加工剥片、敲石や磨石、台石などの礫塊石器類の出土がみられることが一般的である。しかし、本遺跡においては局部磨製石斧1点を除いて関連資料は見つかっていない。

AT直下にあたるIX層最上部より礫群が検出された（中ノ追第3遺跡-旧石器時代II期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第3段階に相当する。

後期旧石器時代後半から最終末の中ノ追第3遺跡

Kr-Kbを含む褐色土（VI層）を中心に、ナイフ形石器・角錐状石器や当該時代と思われる剥片等が断片的ながら出土した。小規模な礫群も複数検出された（中ノ追第3遺跡-旧石器時代III期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第5～6段階に相当する。

一方、本遺跡と同台地上に隣接する中ノ追第2遺跡において一定規模の礫群や角錐状石器製作跡を含む石器集中が確認されている。地形からみると、中ノ追第2遺跡の方がより広く安定的である。これと対比するならば、本遺跡は舌状台地突端部という立地条件から、小規模なブロックのみが展開する空間であったものと考えられる。

この傾向は細石刃石器群も同等であり（中ノ追第3遺跡-旧石器時代IV期）、細石刃のみが少量出土したのみで、細石刃核はみられなかった。特定の石器集中等もみられなかった。1基のみ検出された陥し穴状遺構はこの時期に相当すると思われる。

縄文時代早期の中ノ追第3遺跡

集石遺構は、大きくA区南半分・B区北東隅・南西隅の3箇所に群をなしていた。また、4群+1基の炉穴、土坑が検出された。遺構密度はたいへん高い。

また、これら遺構群にともなって、早期前半の貝殻条痕文土器・無文土器、石鏃・剥片・石核・局部磨製石斧・打製石斧等が数多く出土した。

貝殻条痕文土器は集石遺構検出層にともない多量に出土したが、押型文土器は伴わず小破片2点のみにとどまる。遺跡形成の中心は、早期前半の貝殻条痕文土器の時期と考えられる。また、炉穴（SP2）からほぼ一箇体の深鉢が出土しており、炉穴の用途を考えた上でも興味深い。自然科学分析の結果では、SP5が他の炉穴や集石遺構より築造時の年代がさかのぼる可能性も指摘できる。

さらに、局部磨製石斧・打製石斧はB区の集石遺構検出層より出土し、周囲に同じ石材の剥片を密にともなっていた。石斧製作が行われのたであろう。

そして現代へ

縄文時代早期に大量の痕跡が残された中ノ追第3遺跡も、発掘調査の中では、それ以後の積極的な人間活動は追いに少なくなる。唯一、果樹園にともなう覆乱坑が残されるばかりであった。そして近未来、東九州自動車道となるのである。

参考文献

宮崎県旧石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66旧石器文化談話会

圖 版



遺跡俯瞰（垂直方向より）



遺跡遠景 (1)
日向灘をのぞむ (中央・道路左側が中ノ迫第3遺跡)



遺跡遠景 (2)
舌状台地の縁辺に立地する中ノ迫第3遺跡 (遠くは尾鈴山系)

図版3



A区 K-Ah残存状況 (南より)



B区 K-Ah残存状況 (南より)



作業風景



基本土層



B区 旧石器時代1期局所磨製石斧出土状況



A区 旧石器時代Ⅲ期 (VI層検出) S12検出状況



B区 旧石器時代Ⅱ期 (IX層検出) S11検出状況



B区 旧石器時代Ⅲ期 (VI層検出) SI7検出状況



B区 旧石器時代Ⅳ期 (V層検出) SC3半載状況



B区 旧石器時代Ⅳ期 (V層検出) SC3土層堆積状況



A区 縄文時代早期 (IV層検出) SI38検出状況



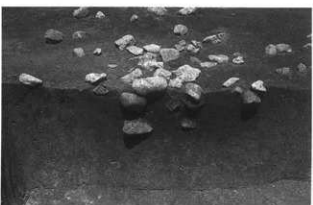
A区 縄文時代早期 (V層検出) SI33検出状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SI12検出状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SI11配石検出状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SI19半載状況

図版5



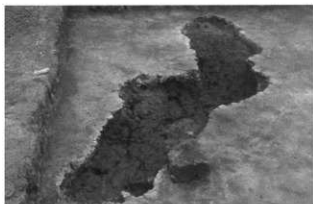
A区 縄文時代早期 (V層検出) SI19完掘状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SI29半截状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SI18半截状況



A区 縄文時代早期 (VII層検出) SP1焼土面検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP2焼土面検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP3焼土面検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP4検出面状況



B区 縄文時代早期 (VII層検出) SP5検出面状況



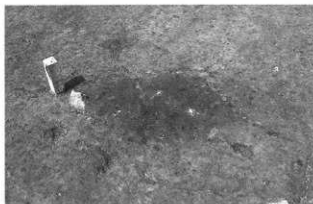
B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP5ブリッジ検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP5ブリッジ半載状況



B区 縄文時代早期 (VII層検出) SP5焼土面状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SC5検出状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SC5半載状況



A区 縄文時代早期 (V層検出) SC4半載状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SC14半載状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SC13半載状況